

先端技術による IT 産業振興に向けた  
札幌テクノパークの新機能に関する調査業務

報告書

平成 29 年 3 月

一般財団法人さっぽろ産業振興財団



# 目 次

I	札幌テクノパークの現状と課題	1
1.	札幌テクノパークの概要	1
(1)	団地概要	1
(2)	立地企業	4
(3)	札幌市エレクトロニクスセンターの機能	7
2.	他都市の関連施設との比較	15
(1)	京都リサーチパーク（京都市）	15
(2)	ソフトピアジャパン（大垣市）	20
(3)	かながわサイエンスパーク（川崎市）	25
(4)	長浜サイエンスパーク（長浜市）	31
(5)	札幌テクノパークとの比較	37
3.	札幌テクノパークの強み・弱み	39
II	企業のニーズ調査	40
1.	上場企業の意向調査	40
(1)	回答属性	41
(2)	研究開発拠点について	44
(3)	札幌テクノパークへの進出可能性	45
2.	入居企業のニーズ調査	48
III	有識者による検討	58
1.	意見交換会の組成	58
2.	議論概要	59
(1)	第1回会合	59
(2)	第2回会合	60
(3)	まとめ	63
IV	今後の札幌テクノパークの方向性	64
1.	札幌テクノパークに求められる新機能の考え方	64
2.	具体的取組方策	66
(1)	コンセプト（案）	66
(2)	具体的取組	66



# I 札幌テクノパークの現状と課題

## 1. 札幌テクノパークの概要

### (1) 団地概要

札幌テクノパークは、情報通信関連の産業を新たな都市型先端技術産業として定着させ、次代を担う主力産業に育成することを目的に、札幌市が全国に先駆けて整備した研究開発型の団地である。

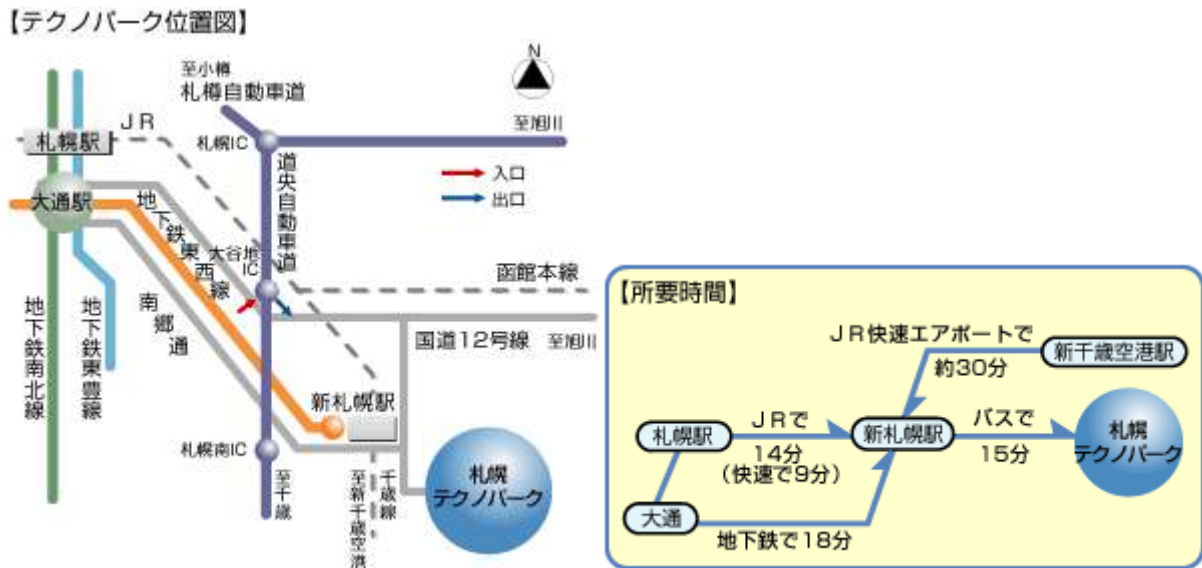
開発総面積は 281,620m<sup>2</sup>(0.28km<sup>2</sup>)。都心から南南東へ約 13km の地点に位置し、札幌市と江別市の行政界沿線に位置している。札幌市厚別区のもみじ台団地と野幌原始林とに接し、総面積の 41.6%が公園や河川の緑地として確保されている。敷地東側境界中央付近から北西側へ延びる馬の背状の丘陵台地を造成しており、敷地西側のほぼ中央部に沢が入り込んでいる。敷地内の標高差は、最高標高 53.5m、最低標高 24.0m で約 30m の標高差がある。なお、ポンノッポロ川沿いには札幌市が管理する雪堆積場（計画搬入量 150,000 m<sup>3</sup>）がある。

この緑あふれる良質な環境を活かし、1986年に分譲が開始された「第1テクノパーク」には、地場のソフトウェア・ハウスや システム・ハウスが立地、1988年から拡張分譲された「第2テクノパーク」には、大手・中堅 IT 企業の札幌開発センターを誘致して立地を進めている。

図表 札幌テクノパークレイアウトイメージ



図表 札幌テクノパークへのアクセス



図表 札幌テクノパーク 工業団地諸元

所在地	札幌市厚別区下野幌テクノパーク	
事業主体	札幌市	
面積	総面積	28.2ha
	工場等用地面積	12.6ha
	分譲済み面積	12.4ha
	分譲中面積	0.2ha
分譲価格	19,500円/m <sup>2</sup> (平成28年度)	
用途地域	準工業地域	
地質・地盤	地質: 第2種(火山灰・シルト質砂) N値: 6~17 杭打可能地盤までの深さ: 17~22m	
用水	上水道: 取水可能量8,640m <sup>3</sup> /日	
排水	排水条件: A種 排水先: 公共下水道	
電力	厚別変電所(50,000kVA)まで4km、高圧線6.6kV	
インターネット	光	
希望業種	ソフトウェア技術及びシステム技術の研究開発を行う企業	

図表 札幌テクノパークの土地利用状況

区 分	面積(m <sup>2</sup> )	構成比(%)	備 考
分譲地	118,058	41.9	第1: 46,558m <sup>2</sup> 第2: 71,500m <sup>2</sup>
札幌市エレクトロニクスセンター用地	12,000	4.3	
道路用地	29,816	10.6	第1: 10,516m <sup>2</sup> 第2: 19,300m <sup>2</sup>
公園用地	110,246	39.1	第1: 54,146m <sup>2</sup> 第2: 56,100m <sup>2</sup>
河川調整池	11,500	4.1	第2テクノパークのみ
合 計	281,620	100.0	

図表 札幌テクノパークへの立地時に活用可能な支援制度(札幌市)

支援制度名	対象	補助内容
IT・コンテンツ・バイオ立地促進補助金	IT・デジタルコンテンツ・バイオ分野の研究・開発・制作拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工事費・機器購入費・採用費の1/2、産業団地への市内移転・増設に伴う機器輸送費（最高800万円）</li> <li>●新規雇用または市外から転入した正社員1人あたり50万円（最高600万円×2年間）</li> </ul>
札幌圏設備投資促進補助金	製造業、情報通信業、運輸業、卸売・小売業、学術研究・専門・技術サービス業の、「試験・研究・開発施設」、「工場」、「物流施設」、「データセンター」など	固定資産評価額(土地を含む)×最高20%（最高10億円）
コールセンター・バックオフィス立地促進補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コールセンター：受信業務を行ラインバウンド・コールセンター</li> <li>○バックオフィス：本社、本社機能、バックオフィス業務</li> <li>○特例子会社：障害者の雇用の促進等に関する法律第44条第1項に規定する認定を受けた特例子会社の本社・支社その他事業所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新設：最高1,000万円×3年間（新規雇用常用雇用者1人あたり20万円(正社員・障がい者は30万円)）</li> <li>●増設：最高1,000万円（2年間での常用雇用者の増加1人あたり10万円）</li> </ul>

## (2)立地企業

### ①第1テクノパーク：

札幌に本社を置くソフトウェア・ハウスやシステム・ハウスなどの、地場のIT企業を中心に、25社が立地(2017年1月現在)。その他、貸し会議室、駐車場、高セキュリティの賃貸オフィスを備えた公的支援施設である「札幌市エレクトロニクスセンター」が立地している。

### ②第2テクノパーク：

道外に本社を置く大手・中堅企業の札幌開発センターや、その子会社、関係会社の開発拠点を中心に、計12社が立地(2017年1月現在)。

図表 札幌テクノパーク立地企業一覧



第2テクノパーク	
A	(株)つうけんアドバンスシステムズ、 (株)つうけんアクト
B	ムトーアイテックス(株)
C	イムラ・ジャパン(株)
D	(株)NTTデータMSE 札幌拠点
E	(株)朋栄
F	北海道オフィス・システム(株)
G	-- [吉坂製作所ビル]
H	日本コンセントリクス(株) 札幌テクノパーク事業所
I	(株)エイ・ダブリュ・ソフトウェア
J	セイコーエプソン(株) 札幌ソフトセンター
K	-- [ビーコンIT札幌テクノセンター]
L	札幌市役所が公募分譲中
M	
N	(株)ビー・エム・エル
O	
P	日本ユニシス(株) 北海道支店

第1テクノパーク	
A	札幌市エレクトロニクスセンター (13社が入居中)
B	SOC(株) [本社ビル]
C	ビー・ユー・ジーDMG森精機(株)
D	ウェルネット(株)
E	富士通(株) 札幌システムラボラトリ
F	--
G	
H	-- [東洋実業ビル]
I	エム・ワイ・エス(株)
J	--
K	日本トータルシステム(株)
L	セイコーシステムエンジニアリング(株)
M	(株)ラルズネット 札幌オフィス
N	SOC(株) [第2ビル]
O	--
P	-- [ユニオンビル]
Q	(株)アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング
R	(株)エルムデータ
S	(株)エコニクス
T	(株)ダイナックス
U	(株)エコニクス [別館]



注：2017年1月現在

図表 札幌テクノパーク立地企業概要

第1テクノパーク		
SOC(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	2,000万円
	事業概要	ソフトウェア開発、コンサルティング
ピー・ユー・ジーDMG森精機(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	1億円
	事業概要	コンピュータシステム、ハードウェア、ソフトウェアの企画、設計、開発、製造、販売
ウェルネット(株)	本社所在地	東京都
	資本金	6億6,778万円
	事業概要	代金決済・電子請求・電子決済、携帯認証ソリューションの開発・提供等
富士通(株) 札幌システムラボラトリ	本社所在地	東京都
	資本金	3,246億円
	事業概要	通信システム、情報処理システム、電子デバイスの製造・販売、関連サービス
エム・ワイ・エス(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	1,000万円
	事業概要	ソフトウェアシステムの製造、販売、サービス
日本トータルシステム(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	5,000万円
	事業概要	グループウェア、WEBサイト・WEBシステム、SNS向けアプリ等開発
セイコーシステムエンジニアリング(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	9,500万円
	事業概要	流通システムソフトウェア研究、開発、販売、受託計算事業等
(株)ラルズネット 札幌オフィス	本社所在地	函館市
	資本金	1億円
	事業概要	不動産情報サービス、広告メディア事業、WEBサイトの企画・デザイン等
(株)アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	9,500万円
	事業概要	ソフトウェア開発受託、システム開発及び導入に係わるコンサルテーション等
(株)エルムデータ	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	6,000万円
	事業概要	コンピュータインターフェース、コンピュータ応用システム、画像処理システム等製造
(株)エコニクス	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	5,000万円
	事業概要	環境に関する情報の処理及び利・活用
(株)ダイナックス	本社所在地	東京都
	資本金	5,000万円
	事業概要	グループウェア、保養所予約、診療所予約等クラウドサービス

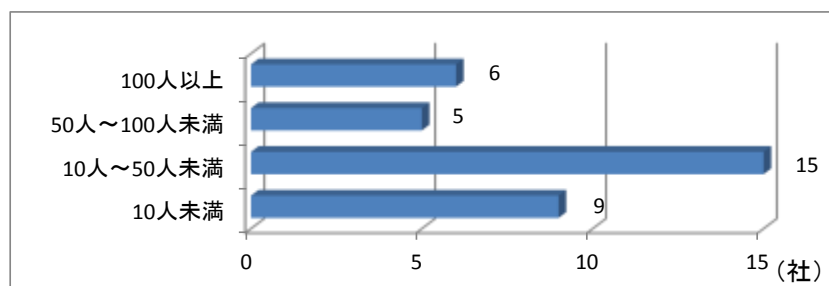
注：2017年1月現在

第2テクノパーク		
(株)つうけんアドバンスシステムズ	本社所在地	札幌市
	資本金	3億5,000万円
	事業概要	ソフトウェアコンサルティング、開発、保守・運用
(株)つうけんアクト	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	5,000万円
	事業概要	総合リース、総合レンタル、人材派遣等
ムトーアイテックス(株)	本社所在地	東京都
	資本金	2億円
	事業概要	システムソリューションサービス、ソフトウェア開発
イムラ・ジャパン(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	3,000万円
	事業概要	自然科学分野に関する調査・分析・研究・開発とその受託
(株)NTTデータMSE 札幌拠点	本社所在地	横浜市
	資本金	3億2,000万円
	事業概要	IoTサービス、プロダクトサービス、オートモーティブビジネス
(株)朋栄	本社所在地	東京都
	資本金	4億5,000万円
	事業概要	電子機械器具、電子応用機械器具、電子計測器、電子情報処理装置の開発・製造販売
北海道オフィス・システム(株)	本社所在地	札幌市
	資本金	8,000万円
	事業概要	IT機器・ソリューション販売、システム構築運用保守関連業務
日本コンセントリクス(株) 札幌テクノパーク事業所	本社所在地	東京都
	資本金	3億1,000万円
	事業概要	カスタマー・ケア及び業種・業界別のビジネス・プロセス・アウトソーシング・サービス
(株)エイ・ダブリュ・ソフトウェア	本社所在地	札幌テクノパーク
	資本金	2,000万円
	事業概要	カーナビゲーション専門ソフト開発
セイコーエプソン(株) 札幌ソフトセンター	本社所在地	諏訪市
	資本金	532億400万円
	事業概要	プリンター、ビジュアルプロダクツ、ウェアラブル機器、ロボティクスソリューションズ等
(株)ピー・エム・エル	本社所在地	東京都
	資本金	60億4,559万円
	事業概要	臨床検査の受託(内分泌、血漿蛋白、生化学、ウイルス等)
日本ユニシス(株) 北海道支店	本社所在地	東京都
	資本金	54億8,317万円
	事業概要	クラウド、アウトソーシングサービス等

注：2017年1月現在

立地企業の就業者については、全体で約2,500人。平成28年4月の人口調査によると、50人未満の事業所が24社と最も多い。100人以上の事業所も6社立地している。

図表 札幌テクノパーク立地企業の就業者規模



### (3) 札幌市エレクトロニクスセンターの機能

札幌テクノパークの中核施設として、1986年に設置された。高セキュリティの賃貸事務所(OAフロア仕様、ウェットラボ仕様)、安価な貸し会議室、食堂や駐車場など、ソフトウェア開発やシステム開発を行うIT系の企業、また、生体組織や食品、化粧品の評価や分析を行う食関連やバイオ系の企業に最適な公共的産業支援施設と位置づけられている。

現在は、高度なIT人材の育成及び企業の技術力情報の発信を積極的に実施し、首都圏等からの付加価値の高い開発案件受注の促進を行うとともに、IT未経験者を育成、IT企業への就業を図ることで、IT人材の裾野の拡大を図っている。また、民間の活力を積極的に活用し、技術検証・高度人材育成・販路開拓等を実施している。

また、IT企業が集積している札幌エレクトロニクスセンターにバイオ企業の集積も図り、IT産業とバイオ産業との連携によって両産業の一層の振興を図ることを目的に、札幌エレクトロニクスセンターの一部をウェットラボ仕様※に改修。

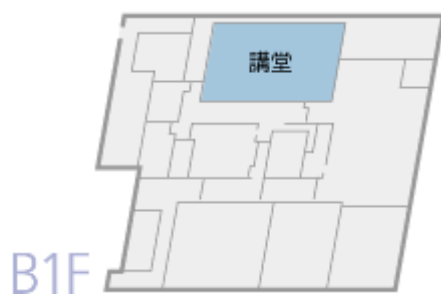
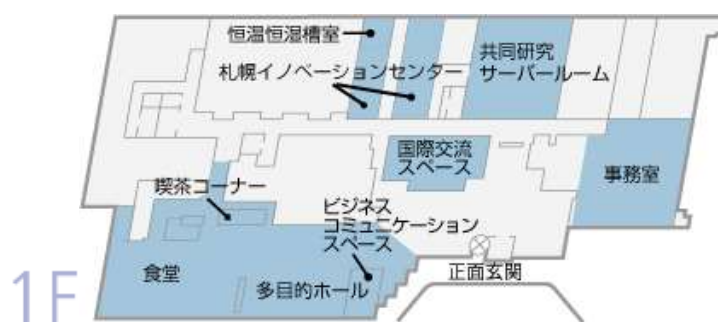
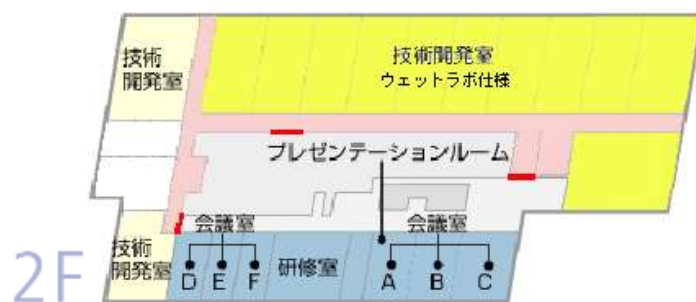
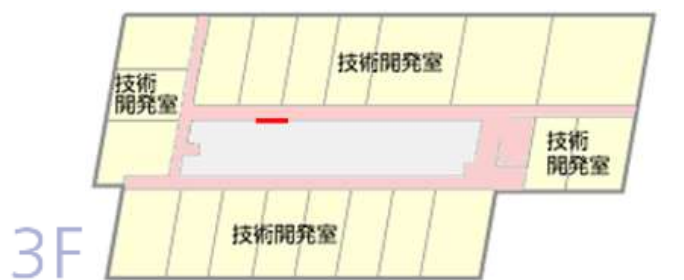
※ウェットラボ：薬品等の液体を扱うことが出来るように、床が耐水、耐薬仕様になっている実験室で、当施設のウェットラボは、上下水道、ガスを完備しており、排気設備も設置可能で、食品の安全性、有用性評価やバイオに関連する研究開発を行うことが可能となっている。

図表 札幌市エレクトロニクスセンター施設概要

構造・規模	鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上3階、地下1階(高さ 13.6m)
敷地面積	12,000㎡
延床面積	7,990㎡
行政財産	4,013.15㎡(50.2%) 会議室(6室)、研修室、サーバールーム、多目的ホール、食堂、喫茶コーナー、講堂(体育館)
普通財産	3,976.71㎡(49.8%) 技術開発室(賃貸事務所) 技術開発室A (IT企業向けレンタルオフィス) 18室/23室 技術開発室B (食・バイオ企業向けウェットラボ) 3室/11室 合計 21室/34室 (入居率 65.7%)



図表 札幌市エレクトロニクスセンター各階概要



図表 札幌市エレクトロニクスセンター入居費用

○技術開発室A(OAフロア仕様)

1坪= 3.30579 m<sup>2</sup>

	室	面積(m <sup>2</sup> )	(坪)	使用料	共益費	計(賃料)	契約保証金	
1	A	201	58.20	17.61	81,900	47,700	129,600	259,200
2	A	202	71.29	21.57	100,300	58,400	158,700	317,400
3	A	213	85.85	25.97	120,800	70,300	191,100	382,200
4	A	301	86.99	26.31	122,400	71,200	193,600	387,200
5	A	302	58.20	17.61	81,900	47,700	129,600	259,200
6	A	303	71.29	21.57	100,300	58,400	158,700	317,400
7	A	305	76.54	23.15	107,700	62,700	170,400	340,800
8	A	306	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
9	A	307	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
10	A	308	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
11	A	310	145.80	44.10	205,100	119,400	324,500	649,000
12	A	311	145.80	44.10	205,100	119,400	324,500	649,000
13	A	312	170.10	51.46	239,300	139,300	378,600	757,200
14	A	313	87.60	26.50	123,300	71,700	195,000	390,000
15	A	315	65.70	19.87	92,400	53,800	146,200	292,400
16	A	316	97.20	29.40	136,800	79,600	216,400	432,800
17	A	317	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
18	A	318	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
19	A	320	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
20	A	321	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
21	A	322	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
22	A	323	72.90	22.05	102,600	59,700	162,300	324,600
23	A	325	97.20	29.40	136,800	79,600	216,400	432,800

○技術開発室B(ウェットラボ仕様)

1坪= 3.30579 m<sup>2</sup>

	室	面積(m <sup>2</sup> )	(坪)	使用料	共益費	計(賃料)	契約保証金	
1	B	203	76.54	23.15	124,800	62,700	187,500	375,000
2	B	205	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
3	B	206	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
4	B	207	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
5	B	208	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
6	B	210	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
7	B	211	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
8	B	212	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
9	B	215	72.90	22.05	118,900	59,700	178,600	357,200
10	B	216	97.20	29.40	158,500	79,600	238,100	476,200
11	B	217	153.30	46.37	250,000	125,500	375,500	751,000



図表 札幌市エレクトロニクスセンター各階概要

技術開発室A

床面積		100m <sup>2</sup> 未満	100m <sup>2</sup> 未満
建 築	天井高(階高)	2.60m (3.75m)	
	耐床荷重	300kg/m <sup>2</sup>	
	扉の大きさ(W×H)	W 1.2m × H 2.1m(親子扉)	W 1.2m × H 2.1m(親子扉) × 2
電気設備	単相電源 200V/100V	最大電気容量	20.0kVA
		うち換気、照明容量分	4.0kVA
賃料		2,226円/月・m <sup>2</sup> (共益費・消費税込)	
その他費用		初期設備工事、電気代、冷暖房代、インターネット接続費用	

技術開発室B(ウェットラボ)

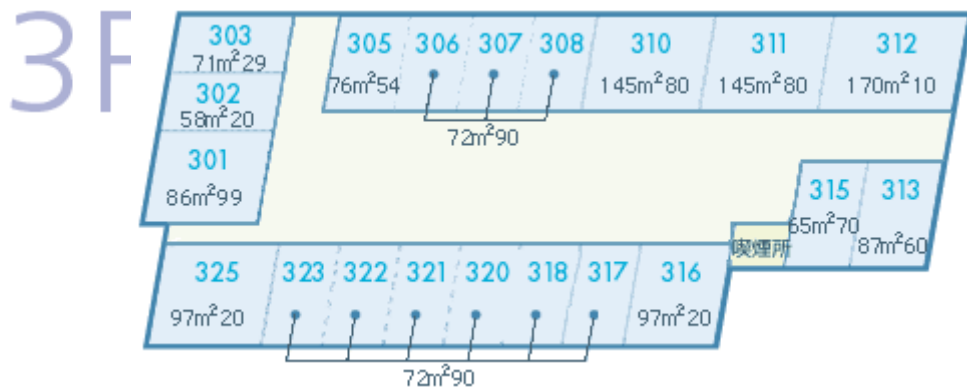
居室番号		203	205/206/207/208 210/211/212/215	216	217
建 築	床面積	76.54m <sup>2</sup>	72.90m <sup>2</sup>	97.20m <sup>2</sup>	153.30m <sup>2</sup>
	天井高(階高)	2.57m (3.75m)			
	耐床荷重	300kg/m <sup>2</sup>			
	扉の大きさ(W×H)	W 1.2m × H 2.1m(親子扉) ボトムエアタイト仕様			
電気設備	単相電源 200V/100V	最大電気容量	20.0kVA	20.0kVA	20.0kVA × 2
		うち換気、照明容量分	1.652kVA	2.036kVA	1.652kVA × 2
	三相電源 200V	最大電気容量	20.0kVA	20.0kVA	20.0kVA × 2
		うち空調容量分	3.27kW	3.78kW	3.78kW × 2
通信設備※	電話回線数	端子盤止め10回線			端子盤止め10回線 × 2
	高速通信回線(光ケーブル)	1回線			2回線
機械設備	換気設備	将来ダクトスリーブ	給排気が必要となる設備(ドラフトチャンバー等)を実験室内に設置される場合、外壁の将来ダクトスリーブ部分の開口が可能		
	給水設備		各実験室内(廊下側天井下)に給水管20Aをバルブ止め		
	排水設備		各実験室内床(外壁側床上)に排水管50Aを袋ナット止め		
	都市ガス設備		各実験室内(外壁側天井下)にガス管32Aをバルブ止め		
賃料		2,450円/月・m <sup>2</sup> (共益費・消費税込)			
その他費用		初期設備工事、電気代、上下水道代、ガス代、インターネット接続費用、産業廃棄物処分費用 等			

※利用にあたっては入居者より通信事業者への申込が必要

図表 ウェットラボへの入居時に活用可能な支援制度(札幌市)

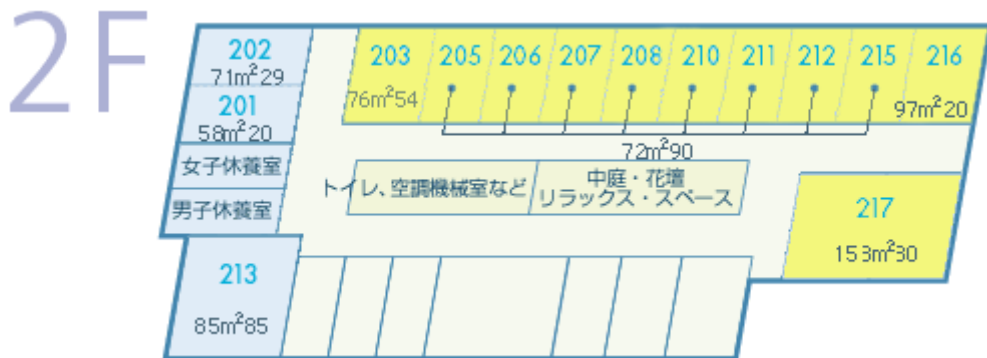
支援制度名	対象	補助内容
IT・バイオ研究開発補助金	ウェットラボに入居する食・バイオ関連企業が行う、食・バイオ関連の研究・開発等に取り組む事業	●補助金 上限3,000千円/件、補助率1/2 (2年目以降は段階的に減額し、2年目2,000千円、3年目1,000千円を上限) ●補助対象期間 申請を行った日の属する年度内 (補助対象期間の合計が36ヵ月を超えない範囲で、各年度1回に限り補助金の交付申請可能)
バイオIT活用補助金	ウェットラボに入居する食・バイオ関連企業が、札幌テックパーク内に本社または支店を有するIT関連企業との間で、IT技術を活用した共同研究・共同開発、委託開発等に取り組む事業	●補助金額 上限3,000千円/件、補助率1/2 ●補助対象期間 申請を行った日の属する年度内 (補助対象期間の合計が36ヵ月を超えない範囲で、各年度1回に限り補助金の交付申請可能)

図表 札幌市エレクトロニクスセンター入居企業一覧



部屋番号	企業・団体名
301	(株)ブレインソフト
302	NTT東日本 法人営業部
303	NPO法人UNISON 札幌市IT振興普及推進協議会
305	シグマインキュベーション(株)
306	アルパニー・インターナショナル・ジャパン(株)
307	
308	募集停止中
310	(株)テクノラボ
311	(株)テクノラボ
312	(株)テクノラボ 本社(総務/受付)

部屋番号	企業・団体名
313	(株)テクノラボ
315	(株)ワコー 札幌事業所
316	ジーエムラボ(株)
317	(株)エンルート
318	募集停止中
320	
321	(株)レゾロジック 札幌支社
322	
323	(株)テクノラボ
325	(株)ハルソフト



部屋番号	企業・団体名
201	古本買取通販ドットコム(株)
202	募集停止中
213	募集停止中
203	募集中
205	募集中
206	募集中
207	募集中
208	募集中

部屋番号	企業・団体名
210	募集中
211	募集中
212	募集中
215	(株)イーベック
216	(株)イーベック
217	(株)イーベック

注1：黄色い部分11室は、食・バイオ関連の評価・分析・実験ができるウェットラボ仕様(タイプB)

注2：現在、IT企業向けの貸し室の募集は停止中

注3：2017年1月現在

図表 札幌市エレクトロニクスセンター入居企業概要

部屋番号	企業・団体名	概要	
		本社所在地	
301	(株)ブレインソフト	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	1,500万円
		事業概要	ソフトウェア開発
302	NTT東日本 法人営業部	本社所在地	東京都
		資本金	3,350億円
		事業概要	東日本地域における地域電気通信サービス
303	NPO法人UNISON 札幌市IT振興普及推進協議会	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	—
		事業概要	情報サービス、研究・調査企画サービス
305	シグマインキュベーション(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	1,000万円
		事業概要	ソフトウェア開発
306,307	アルパニー・インターナショナル・ジャパン(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	4,000万円
		事業概要	ソフトウェア開発
310,311 311,313 323	(株)テクノラボ	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	1億5,000万円
		事業概要	情報システム開発、ソフトウェア開発
315	(株)ワコー 札幌事業所	本社所在地	埼玉県上尾市
		資本金	3,000万円
		事業概要	センサの研究開発
316	ジーエムラボ(株)	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	300万円
		事業概要	ソフトウェア開発
317	(株)エンルート	本社所在地	埼玉県ふじみ野市
		資本金	4,600万円
		事業概要	精密機械等の設計、製造、販売
321,322	(株)レゾロジック 札幌支社	本社所在地	東京都
		資本金	7,300万円
		事業概要	ソフトウェア開発
325	(株)ハルソフト	本社所在地	札幌テクノパーク
		資本金	1,000万円
		事業概要	情報システム開発
201	古本買取通販ドットコム(株)	本社所在地	山梨県都留市
		資本金	300万円
		事業概要	本、CD、DVD、ゲームソフトの買取と販売
215,216 217	(株)イーベック	本社所在地	札幌市
		資本金	4億2,939万円
		事業概要	医薬品向け完全ヒト抗体の製造・販売

注：2017年1月現在



図表 札幌市エレクトロニクスセンターに関連した主な事業・出来事

西暦	年号	記事
1986年	昭和61年	札幌テクノパーク 分譲公募 開始 財団法人札幌エレクトロニクスセンター 設立 札幌市エレクトロニクスセンター オープン 汎用機 DEC VAX-11/785 VMS、通信制御用 DIPS/V30の共同利用 開始
1987年	昭和62年	開設一周年を記念し、札幌国際コンピュータグラフィックスシンポジウム 開催 【1993年度(平成5年度)まで毎年開催】
1989年	平成元年	国際協力事業団(JICA)より、情報処理要員の育成を受託 【2005年度(平成17年度)までJICAからの研修受託事業を実施】
1992年	平成4年	コンピュータネットワーク研究会 設立 【後に「北海道地域ネットワーク協議会(NORTH)」へ(現在は、NPO法人NORTHとして活動)】
1993年	平成5年	慶応義塾大学等と共同でWIDEプロジェクト(ネットワーク利用研究)を実施 インテリジェントパッド(IntelligentPad)事業スタート 【2006年度(平成18年度)まで事務局として参画】
1994年	平成6年	エレセン・ウィーク '94 開催 マルチメディア・オーサリング・スタジオの設置・運営開始。統合化メディア研究会 MIRG 設立。 ハイパー風土記 札幌「OROPPAS」制作 「サッポロ・ハイパーラボ」設立。世界的なメディア研究家テッド・ネルソン氏を招聘
1995年	平成7年	NTTマルチメディア通信共同利用実験に参画。 Inter City OROPPAS '95 開催
1996年	平成8年	「デジタル工房」を開設・運営開始 【2001年度(平成13年度)まで運用、その後ICCへ移設】 センター10周年事業として、「CyberSpace Sapporo '97」、「テクノパーク・フェスタ '97」開催 【テクノパークフェスタは、現在まで毎年度開催】
1997年	平成9年	「ザ・デジタル・ウィーク・サッポロ '98」開催
2000年	平成12年	市内中心部にサテライトオフィス「札幌市情報ビジネス支援センター(IBC)」がオープン。 【2001年度(平成13年度)までの2か年度】
2001年	平成13年	e-Silkroad構想推進事業をスタート【2006年度(平成18年度)まで実施】 「札幌市ITマスター」を認定。【H15年度まで3か年で計23名を認定】
2002年	平成14年	改組により(財)さっぽろ産業振興財団が発足。 札幌 IT City推進協議会設立【以後、18年度までICカードの実証研究事業の実施(Sapporo City Card)】
2004年	平成16年	韓国IT企業の情報収集や商談等に利用できる「国際交流スペース」を開設 第1回「Java Festa」を開催 【平成25年度まで毎年開催】
2006年	平成18年	札幌市高度情報通信人材育成・活用事業スタート 【2010年度(平成22年度)まで実施】 札幌テクノパーク20周年記念フォーラム開催
2007年	平成19年	「さっぽろ企業情報提供センター」オープン【Web上の市内IT企業DB、現在まで運用継続中】 「札幌イノベーションセンター」開設 技術者向けセミナー「札幌イノベーションデイ」開催 【2009年度(平成21年度)まで開催】
2008年	平成20年	「札幌市SaaSビジネス研究会」発足 【2013年度(平成25年度)まで実施】
2009年	平成21年	公共クラウド基盤(SaaSモデルによる公共ポータル)整備【2014年度(平成26年度)まで運用】 IT協業化支援事業費補助金交付【2011年度(平成23年度)まで実施】
2010年	平成22年	産総研包括フレームワーク研修スタート【2013年度(平成25年度)まで実施】 第1回「札幌クラウドセミナー」開催 【2013年度(平成25年度)まで年2回ペースで開催】
2011年	平成23年	IT企業協業化促進事業スタート【名称を「IT企業高度化推進事業」に変更し継続実施】 市内ITリーディングカンパニー育成事業スタート【名称を「IT活用ビジネス拡大事業」に変更し継続実施】
2012年	平成24年	学生を対象とした「ITビジネスプランコンテスト事業」スタート【2015年度(平成27年度)まで実施】 「スマホキャンプ」開催【名称を「サッポロクリエイティブキャンプ」に変更し継続実施】
2013年	平成25年	食・バイオ関連企業向け技術開発室「ウェットラボ」開設 IT活用促進事業費補助金交付【現在まで継続実施】
2014年	平成26年	IT×バイオ連携推進事業スタート【現在まで継続実施】 「札幌市ITイノベーション研究会」発足【現在まで継続実施】 第1回「札幌イノベーションセミナー」開催【現在まで年2回ペースで開催】 「Developers Festa Sapporo」開催【Java Festa の後継イベント、現在まで毎年開催】
2016年	平成28年	札幌テクノパーク30周年記念フォーラム開催

札幌市エレクトロニクスセンターを管理運営する「一般財団法人さっぽろ産業振興財団」は、前身の財団法人札幌エレクトロニクスセンターが設立された昭和 61 年から 27 年間にわたって、札幌テクノパークの中核施設である札幌市エレクトロニクスセンターの管理・運営を一貫して行っており、豊富な実績、ノウハウを有している。施設の管理運営に限らず、エレクトロニクス応用技術に関する産・学・官の共同研究・共同開発、技術指導及び技術セミナーなど普及啓発を、最新技術トレンドに乗って継続的に実施し、札幌市の情報産業の振興及び地域産業の高度化を図ってきた実績を有している。

また、当財団は産業振興を目的とした公的機関として、内外の関係機関、IT 企業、団体、専門家、クリエイター等と広範なネットワークを有し、創業前、創業期、成長期、成熟期といった企業発展の各ステージに合致した最適な支援策を総合的に提供できるほか、企業支援については、一時的な支援にとどまらず、支援策実施後の事後フォローも行っており、企業が着実に成長できるよう、きめ細やかな支援体制を有している。

以下に、さっぽろ産業振興財団が札幌市エレクトロニクスセンターを中心として実施している主な事業について示す。

#### ①IT 企業高度化推進事業

札幌市内の IT 企業の新製品やサービスの創出促進や受注機会の拡大により札幌の IT 産業の活性化を図るため、新しい技術やサービス等に係る人材育成や、セミナー、イベント等の開催、ビジネスモデルづくりの支援を実施。

##### ●札幌市 IT イノベーション研究会

IT 技術と異分野の技術やビジネスとを有機的に結びつけ、新たな価値を創出する

##### ●Developers Festa

エンジニアを対象に最新 IT 技術を紹介するセミナーイベント

##### ●サッポロクリエイティブキャンプ

スマホ・タブレット等のアプリ開発のための技術セミナー

#### ②IT 利活用ビジネス拡大事業

情報通信関連産業が他産業(食、観光、環境、健康・福祉分野等)の付加価値の創出に寄与することを目的とした活動を行うとともに、これまで以上に他産業分野における IT の利活用の促進を図り、そのパートナーとして市内 IT 企業が協業していく場を設定することで、共に市内産業の発展をもたらす IT 利活用を中心とした更なる協力関係の構築を目指している。

##### ●IT 利活用促進事業費補助金

各産業分野における IT の利活用を促進するため、IT 産業を除く市内中小企業が自社の経営課題を解決することを目的とした IT の利活用事業に対して補助金を交付

##### ●他産業分野との交流会(マッチング)

「さっぽろ企業情報提供センター」に登録している IT 企業を対象に、マーケティングや営業力、企画・提案力の強化を図る研修、「札幌市産業振興ビジョン」で定義する経済の成長をけん引する重点分野(食、観光、環境、健康・福祉分野等)の企業とのビジネスマッチングを、札幌市や関係機関、企業等と連携し実施

## 2. 他都市の関連施設との比較

以下に、IT やバイオ系企業の立地を進めている産業団地や研究施設集積地（リサーチパーク、サイエンスパーク等）について、公開資料等を元に概観し、札幌テクノパークとの特徴等を比較する。

### (1) 京都リサーチパーク(京都市)

#### ■施設概要

名 称	京都リサーチパーク
所 在 地	東地区：〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134 西地区：〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町 90～94
設 立	1989 年
面 積	敷地面積：5.6ha 建物：16 棟
運 営 主 体	京都リサーチパーク株式会社(大阪ガス都市開発(株)100%出資)
ア ク セ ス	●京都駅より (JR・近鉄・地下鉄) JR 嵯峨野線(山陰線)「丹波口駅」下車(所要時間 3 分) 西へ徒歩 5 分 市バス「京都リサーチパーク前」下車(所要時間約 15 分) 西へ徒歩 5 分 タクシー 約 10 分 ●「京都南 IC」または「京都東 IC」より約 20 分
対 象 業 種 等	とくになし

図表 京都リサーチパークエリア図



資料：京都リサーチパーク web ページ

## 1) 設立経緯

京都リサーチパーク（KRP）は、全国初の民間運営によるリサーチパークとして、京都府・京都市、地元産業界との協力・連携の下、1989年にオープン。大阪ガスのガス工場跡地開発プロジェクトとして誕生した。

以来、創造的な研究開発環境や各種サービスの提供を通じて、新たな分野を切り開く企業を支援し、地域の産業発展・活性化に寄与する一方、大学や研究機関、海外リサーチパークなどの交流・連携を積極的に進めている。

## 2) 施設の特徴

敷地内に 16 の建物を配置し、賃貸オフィス、研究スペースとして幅広い業種の企業や研究機関のニーズに応える設備を配備している。

貸会議室については、10 人規模の会議から 350 人規模のレセプションパーティまで対応できる大小 18 の会議室・ホールが併設。面接、入社式、会社説明会など、幅広い場面で利用が可能であり、入居者は室料 20% 割引。

セキュリティ関連としては、東西 2 箇所管理センターを設置し、24 時間 365 日、地区内各ビルの管理と監視を行い、セキュリティの確保と快適環境の提供ができるよう努めている。

< 管理・監視システム >

- ・防犯、防災監視システム
- ・ビル管理システムにより空調及び熱源設備を遠隔監視
- ・エネルギー監視システム
- ・カードによる入退出管理システム

エネルギー面では、

- 商用の特別高圧電圧（7 万 7 千ボルト）受電
  - ・他需要家のトラブルによる停電リスクを低減
  - ・電力会社と隣接し、地中送電線であるため、自然災害による停電リスクを低減
- 中圧ガス導管から送られる都市ガスを利用した空調エネルギーの供給
  - ・阪神大震災でも途絶えることがなかった中圧ガス導管によってエネルギー供給
- ガスコージェネレーションシステムの導入

といった特徴がある。

ネットワーク環境としては、以下のインフラを整備している。

### ● KRP-NET（KRP 構内 LAN）

KRP の各ビル間は光ファイバー網で相互に接続され、ギガビットの速度でデータ通信が行える。入居者同士の相互接続（プライベート接続）も可能

### ● データセンター

京都市で唯一、床免震構造を採用したデータセンターを設置。オフィスと同時に利用することで、自社内のサーバールームのように利便性に優れた運用が実現可

能

●公衆無線 LAN サービス

特定エリアで公衆無線 LAN (Free Mobile) が利用可能

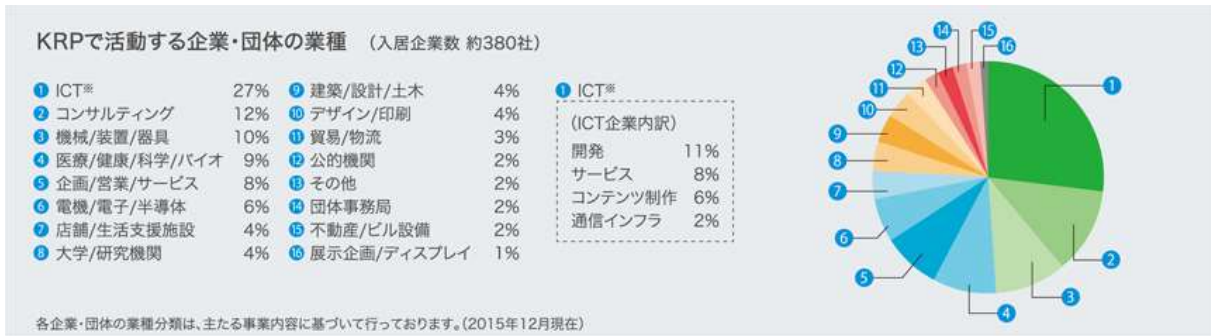
その他設備として、地区内にレストラン、カフェ、居酒屋など、さまざまな飲食店があり、ランチ、打ち合わせや商談、会議後の歓談など、さまざまな場面で利用可能となっている。また、24時間営業のコンビニエンスストアが2店舗(4号館・9号館)、銀行ATM、カフェ併設の書店、レンタルビデオ店、フィットネスクラブが営業している。

また、東地区には、約1,000m<sup>2</sup>の中庭を配置しているほか、9号館周辺は、源氏物語にも登場する京都ゆかりの植物を植栽として多数採用し、京らしい四季感あふれる雅やかな情景を作り出している。さらに、屋上緑化、壁面緑化を通じ、環境負荷の軽減にも積極的に取り組んでいる。

### 3)立地企業の特徴

入居企業は約380社(就業者4,000人以上)で入居率は約9割を超える。オープン当初はIT系が多かったが、近年は再生医療に力を入れていることから製薬系が増えている。

図表 京都リサーチパーク入居企業業種概要



資料：京都リサーチパーク web ページ

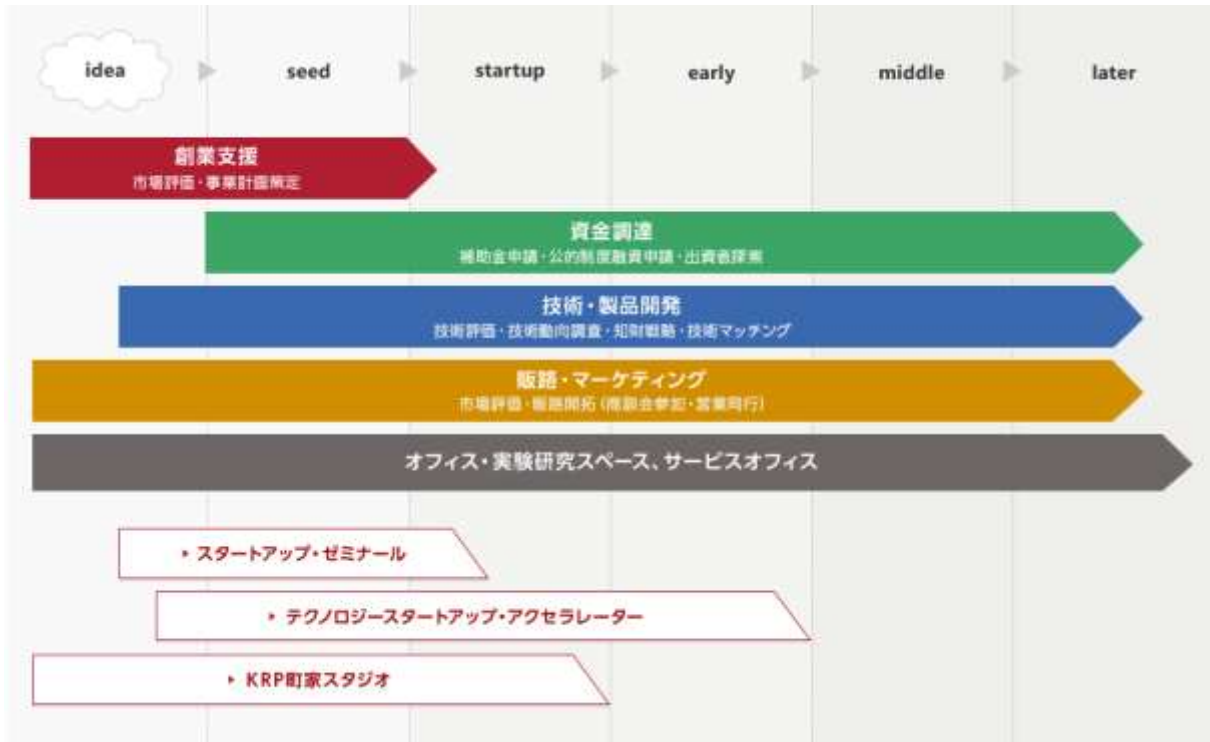
### 4)支援機能等

KRPでは経営・技術・特許等にかかる相談から人材育成支援までの多彩なサービス、民間運営ならではの柔軟な発想と、グローバルネットワークが特徴となっている。企業サポート、産学官連携(産学公連携と呼称)の主な活動・機能は以下のとおり。

#### ①伴走支援メニュー

これからビジネスを立ち上げるアイデアレベルの方から、創業、成長段階の企業まで、「創業支援」「資金調達」「技術・製品開発支援」「販路・マーケティング支援」といったそれぞれの段階に適したメニューで、課題解決と事業拡大のためのサポートを実施。

図表 伴走型支援メニューイメージ



資料：京都リサーチパーク web ページ

## ②産学公連携

設立以来、地区内公的機関や、大学、外部機関と強固な連携をはかりながら、幅広い分野で新産業創出を目指したプラットフォーム活動を展開し、産学公の活発な交流と密接な連携を通じて、新たな産業・ビジネスの創出を目指している。

現在は下記の4つの分野でプラットフォーム活動を進めている。

- ICT&デザイン
- クリエイティブ事業創出
- 電子エネルギーシステム
- ライフサイエンス

## ③立地支援機関

KRP内には、京都府および京都市の産業振興支援機関が集積し、層の厚い創業支援・育成支援機能を果たしている。研究開発を支援する試験分析、製品のデザイン開発、マーケティング、教育、研修から資金調達や経営相談まで、各機関の専門家と外部のアドバイザーがきめ細かな支援にあたっている。

### ●京都府産業支援センター

技術支援を行う「京都府中小企業技術センター」と経営支援を行う「公益財団法人 京都産業 21」が密接に連携し、「京都府産業支援センター」として総合的に企業の多様なニーズに対応

●京都府中小企業技術センター

誰でも利用できる公設の試験研究機関。課題解決に向けた技術相談・支援、技術基盤の強化、研究開発の推進等により、中小企業の成長・発展を支援  
(メニュー)技術に関する相談、機器の利用、分析・試験、研究会・セミナー・講習会

●公益財団法人 京都産業 21

企業の現場訪問やコミュニケーションを通じて、中小企業との強い信頼関係のもと、企業に寄り添いながら個別の課題解決に向け支援を実施

●一般社団法人 京都発明協会（京都府知的財産総合サポートセンター）

特許権取得の支援など、知的創造活動をサポート

●地方独立行政法人 京都市産業技術研究所

京都の中小企業をはじめとする事業者の経済活動を「技術面」からサポートする産業支援機関として、染織技術や繊維材料をはじめ、高分子、金属、窯業、表面処理、バイオ、デザインにわたり、幅広い分野の研究、企業への技術支援を実施

●地方独立行政法人 京都市産業技術研究所

各種材料の物性試験や測定、電子顕微鏡などによる表面観察・分析、化学・機器分析、各種環境試験、染織加工に対する相談や機器利用、共同研究・受託研究、西陣織、京友禅、京焼・清水焼、京漆器等の伝統産業技術者育成研修など、ものづくりに対する指導を実施

●公益財団法人 京都高度技術研究所（ASTEM）

ICTとメカトロニクスを活用した先端科学技術の振興と地域社会の発展に寄与することを目的に、ICT、ライフサイエンス、環境等の諸分野で産学公連携による研究開発、事業化推進、ベンチャー・中小企業に対する研究開発、人材育成、新事業創出、資金調達、販路開拓等での総合的な支援を実施

●ジェトロ京都貿易情報センター

京都地域経済活性化のため、自治体や関係機関との連携をさらに強化し、地域のニーズにより一層根ざした事業を展開



## (2)ソフトピアジャパン(大垣市)

### ■施設概要

名称	ソフトピアジャパン
所在地	〒503-8569 大垣市加賀野 4 丁目 1 番地 7(センタービル)
設立	1996 年(センタービルオープン)
面積	12.7ha
運営主体	分譲:岐阜県 運営:公益財団法人ソフトピアジャパン
アクセス	●名神高速道路「大垣 I.C.」、「大垣西 I.C.」、「岐阜羽島 I.C.」から 車 約 20 分 ●JR東海道本線「大垣駅」から 車 約 10 分 バス 約 15 分 (名古屋～大垣間 快速で約 30 分) ●JR東海道新幹線「岐阜羽島駅」から 車 約 20 分 バス 約 40 分
対象業種等	【情報産業分野】 ソフトウェア技術の研究または開発 コンピュータを利用した映像、通信技術等の研究または開発 高精細な映像の加工、制作業務、研究または開発 放送、通信技術の研究または開発 情報処理技術を利用した最新の製品研究開発 【その他情報関連分野に関連した業務】 情報関連技術を利用した先端技術型事業 情報関連技術を利用した地域密着型事業 情報産業を対象としたビジネス支援事業・人材関連事業

図表 ソフトピアジャパンエリア図



資料：ソフトピアジャパン web ページ



## 1) 設立経緯

1988年3月に策定された「岐阜県ソフトピアジャパン構想」に基づき、1994年3月に財団法人ソフトピアジャパンが設立。1996年4月に「岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）」が開学し、1996年6月中核施設である「ソフトピアジャパン センタービル」がオープンした。

ソフトピアジャパンは、中部圏の一大 IT 拠点であり、情報産業を育成、振興、集積するエリアに、高度 IT 人材育成拠点となる IAMAS をはじめ IT 関連企業が集積し、産業、教育、福祉等あらゆる分野の情報化の実現を目指している。

## 2) 施設の特徴

平成 28 年度現在、5 区画が分譲中である。

図表 ソフトピアジャパン分譲価格

区画番号	分譲面積	分譲価格	単価
C-1	1,151.61㎡	97,195,000円	84,400円/㎡
C-2	2,195.59㎡	178,281,000円	81,200円/㎡
C-3	2,293.52㎡	186,233,000円	81,200円/㎡
D-2	3,860.85㎡	307,323,000円	79,600円/㎡
E-3	2,598.55㎡	211,002,000円	81,200円/㎡

資料：大垣市資料

エリア内には、IT 系の企業分譲地のほか、主要施設として以下の 4 施設がある。

### ①ソフトピアジャパンセンタービル

所在地	加賀野 4 丁目 1 番地 7
構造	地上 13 階 地下 2 階 塔屋 1 階
面積	敷地面積：20,895.00m <sup>2</sup> 建築面積：4,432.65m <sup>2</sup> 延べ床面積：35,939.54m <sup>2</sup>
軒高	57.15m
施設状況	IAMAS 技術開発室 32 室 6 階～9 階
入居料金 (技術開発室)	利用金額 (月額・税込) 2,590 円/㎡ (33 ㎡～251 ㎡) 共益費 (月額・税込) 639 円/㎡

※技術開発室は、ソフトウェア技術、コンピュータを利用した映像/通信技術等の情報関連技術の研究、または開発を行う企業等のために、ソフトピアジャパン各施設に設けられたオフィス・スペース。

## ②アネックス/大垣市情報工房

所在地	小野 4 丁目 35 番地 10
構造	地上 5 階 地下 1 階
面積	敷地面積：4,000.03 m <sup>2</sup> 建築面積：1,999.82 m <sup>2</sup> 延床面積：9,293.52 m <sup>2</sup>
軒高	27.85m
施設状況	大垣商工会議所 4 階 技術開発室 25 室 3 階、4 階
入居料金 (技術開発室)	利用金額 (月額・税込) 2,590 円/m <sup>2</sup> (36 m <sup>2</sup> ~207 m <sup>2</sup> ) 共益費 (月額・税込) 639 円/m <sup>2</sup>

## ③ドリーム・コア

所在地	今宿 6 丁目 52 番地 16
構造	地上 6 階 地下 1 階
面積	敷地面積：3,862.00 m <sup>2</sup> 建築面積：1,835.43 m <sup>2</sup> 延床面積：8,528.32 m <sup>2</sup>
軒高	28.70m
施設状況	入居施設 (インキュベートルーム 技術開発室) 98 室
入居料金	利用金額 (月額・税込) 1 年目 540 円/m <sup>2</sup> 2~3 年目 1,080 円/m <sup>2</sup> 4 年目 1,554 円/m <sup>2</sup> 5 年目 2,072 円/m <sup>2</sup> 共益費 (月額・税込) 639 円/m <sup>2</sup>

※IT ベンチャー育成のためのインキュベートルームを有している。起業家としての成功を目指す、スタートアップ段階のベンチャー企業のビジネスを支援するための入居企業サポートセンターを備えている施設。入居企業が利用できるミーティングルームがあり、商談やプレゼンテーション、社内会議等に利用できる。

※また、1F にはデジタル工作機器を借りられる施設「ものづくり空間 Fab-core ファブコア」があり、ものづくりとソフト開発を結びつけられるようにしている。入居企業の相談窓口としても機能しており、企業とのマッチング機能も持っている。財団が民間企業に委託して運営。

## ④ワークショップ 24

所在地	今宿 6 丁目 52 番地 18
構造	地上 10 階
面積	敷地面積：3,928.00 m <sup>2</sup> 建築面積：1,865.71 m <sup>2</sup> 延床面積：14,122.47 m <sup>2</sup>
軒高	39.04m
施設状況	IAMAS 技術研究室 35 室 ソピア・フラッツ (賃貸住宅) 64 戸 ソピア・キャビン (宿泊施設) 50 室
入居料金 (技術開発室)	利用金額 (月額・税込) 2,590 円/m <sup>2</sup> (35 m <sup>2</sup> ~100 m <sup>2</sup> ) 共益費 (月額・税込) 639 円/m <sup>2</sup>

なお、各施設に上記設備のほか、貸会議室、研修室、ホール (センタービル) が整備さ

れている。岐阜県がプロジェクト統括しているが、(公財)ソフトピアジャパンが事業を実施し、施設管理等は指定管理者が運営している。

### 3)立地企業の特徴

1996年誕生以来、IT企業を集積した情報産業基地として、大手・県外企業、地元企業、ベンチャー企業等約150社(就業者数:約2,100人)が立地するIT拠点に成長している。入居率は約73%。150社のうち、約70社がドリーム・コアに入居しているベンチャー企業。

図表 ソフトピアジャパン集積企業数等

			進出形態								
			分譲地	技術開発型				インターネット	その他		
				うち関連企業	センタービル	アネックス	フューチャースタ			ドリーム・コア	
大手・県外企業	17	大手	7	7	3						
		海外系	1				1				
		県外	9				4				
地元企業	50			7	3	5	1	4	0	0	0
ベンチャー企業	68	海外系	1						1		
		県外	19						10	9	
		県内	48						15	33	
ベンチャー支援機関	1	海外系	0								
		県外	0								
		県内	1								
支援施設	5										5
その他	7										7
合計	148			26	8	21	10	10	26	42	13
	部屋数/区画数	213			24	32	24	35	98		
	利用数	156			19	22	19	21	75		
	(保賃数)	(57)			(5)	(10)	(5)	(14)	(23)		
	入居率	73.2%			79.2%	68.8%	79.2%	60.0%	76.5%		

資料：大垣市資料

### 4)支援機能等

運営主体の(公財)ソフトピアジャパンでは、IT関連企業の集積や優れた情報基盤を生かして、地域産業の高度化を担う人材を育成・供給し、ソフトピアジャパンエリアを「ITビジネスネットワーク拠点」、「中部のIT拠点」として発展させ、ITによる生産性向上や商品の競争力向上を目指した産業の情報化、これを支える情報サービス業の振興を通じ、県内産業の活性化を図るため、各種事業に取り組んでいる。

#### ①新サービス創出支援

ITを活用した新サービス・新商品の創出を図るため、技術者等の交流を促進し、企業間の連携を形成するとともに、企業が必要とする情報提供や支援を実施し、ソフトピアジャパンエリアを新サービス創出の拠点とすることを旨とする。

##### ●新サービス創出拠点事業

- ・コミュニティの形成・活性化(ビッグデータ、オープンデータ等の勉強会)
- ・最新動向等の情報提供や支援

##### ●産学官連携による共同開発支援事業

- ・新しいものづくり手法による新商品・新サービス開発等事業

県内企業の試作品開発力の強化を図るため、ICTを活用した挑戦的な新しいものづくりの場を提供

- ・産学官連携イノベーション創出支援事業  
情報科学芸術大学院大学（IAMAS）あるいは県内外の大学等学術機関等と新サービスや新製品などの開発に挑戦する県内企業をマッチングし共同開発へとつなぐ

●IT ものづくり等推進事業

IT（情報通信技術）を活用して製造業、農林水産業、サービス産業など、様々な産業分野において付加価値の高い新商品・新サービスを創出する技術研究開発に取り組む事業の一部を支援（補助金）

②企業支援

県内中小企業の IT 活用による経営改革を支援するとともに、情報・通信分野における優秀な起業家・人材のソフトピアジャパンエリアへの集積を促進し、進出企業への支援を総合的に展開し、情報産業の振興を図る。

●中小企業情報化支援事業（通称：IT 経営応援隊ぎふ）

県内中小企業の戦略的情報化を促進することを目的に、IT を活用した経営改革を支援

- ・ソフトピアジャパン職員による相談・支援（無償）
- ・IT 経営アドバイザーの派遣（有償：年間 5 回まで）
- ・IT 経営セミナー・IT 利活用セミナー

●ぎふネットショップ総合支援センター

2 つの拠点において、商品写真の撮影やデザインに関する指導を行い、県内事業者のネットショップを支援

- ・専門指導員による個別指導（無償：年間 2 回まで）
- ・商品撮影スタジオ等の設置
- ・各種セミナーの開催

●ソフトピアジャパンビジネスサポートセンター

ドリーム・コアに入居したベンチャー企業、センタービルにステップアップした企業や進出企業を対象に、コンサルティングやビジネスマッチング・イベントの開催、販路開拓支援等を行い、経営面をはじめ総合的な支援を実施

③人材育成・研修

中部圏の IT 人材育成の拠点として、情報社会をリードする人材を育成。また、新たな分野に挑戦する企業経営者、新技術に挑戦する技術者等トップレベル人材のスキルアップを図り、各分野をけん引するトップランナーを育成し、各業界や新技術分野のすそ野を広げ県内企業のレベルアップにつなげる。

●IT 人材育成事業

・IT 技術者育成研修

新分野・新技術等の専門的な IT 技術習得や、デザイン・ビジネススキル等、現場に直結する研修、また、IT 開発現場における実践的なマネジメント研修を実施

・岐阜サマー・サイエンス・スクール

21 世紀の社会を担う青少年に、科学のおもしろさ、不思議さ、楽しさを実感させ、科学への興味・関心を喚起することを目的として、平成 7 年より中津川市において合宿形式で開催

### (3) かながわサイエンスパーク(川崎市)

#### ■施設概要

名 称	かながわサイエンスパーク
所 在 地	〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1
設 立	1989 年
面 積	敷地面積:5.5ha 建築面積:15,987 m <sup>2</sup> 建物延面積:146,336 m <sup>2</sup>
オ ー ナ ー	株式会社ケイエスピー、飛鳥建設株式会社、日本生命保険相互会社、明治安田生命保険相互会社、三井住友信託銀行株式会社
管 理 主 体	株式会社ケイエスピー 公益財団法人神奈川科学技術アカデミー(KAST) 株式会社ケイエスピーコミュニティ ケイエスピー熱供給株式会社 株式会社ホテルケイエスピー
ア ク セ ス	●東急田園都市線・大井町線「溝の口駅」/JR 南武線「武蔵溝ノ口駅」 徒歩約 15 分 KSP 行き無料シャトルバス 約 5 分(約 10 分間隔)※  ●第三京浜道路:京浜川崎 I.C から約 3 分 首都高速 3 号線:用賀 I.C から約 15 分 東名高速道路:東名川崎 I.C から約 25 分  ●新幹線「新横浜駅」 溝の口駅行き直行バスにて高津中学校入口下車、徒歩 2 分
対 象 業 種 等	バイオ、IT、半導体、エレクトロニクス、メカトロニクス等のスタートアップ、大手企業の研究開発型 等

※溝の口駅と KSP を結ぶ無料シャトルバスは、東急バスが運行。運行委託の形式。費用は共益費から支出している。  
その他、朝 10 時まではバス(有料)がないと乗車出来ない。行政からの助成は受けていない。

図表 かながわサイエンスパークエリア図



資料：かながわサイエンスパーク web ページ

図表 かながわサイエンスパーク俯瞰イメージ



資料：かながわサイエンスパーク web ページ

## 1) 設立経緯

1985年に神奈川県を中心としたサイエンスパーク構想調査研究会設置され、1986年12月に民活法適用第1号認定（1号施設＝リサーチコア）として（株）ケイエスピーが設立。翌1987年10月からインキュベート事業を開始し、1989年7月かながわサイエンスパーク（KSP）の建物が竣工した。コンセプトは、「研究開発型企業が生まれ、育ち、集い＝交流する拠点」。

（株）ケイエスピーがその中心母体となり、新技術を創造する（公財）神奈川科学技術アカデミー（KAST）や大学、ベンチャー支援機関と連携・協調し、研究会、セミナー、企業交流会の開催等ほか、最新のビジネステクノロジー、学術情報の提供を積極的に行なうなど、新産業の創出に向けた知と情報の発信拠点となっている。また、国内外のサイエンスパークとのネットワークを構築し、ビジネスのさらなる成長・発展に貢献している。

## 2) 施設の特徴

大企業や外資系企業の研究開発部門も数多く入居している、高度研究開発施設であり、さまざまな研究開発に対応できる会議室・ホール・ギャラリーが都心約20分圏内に整っているという利便性の高さに加え、館内には高度計測センターや知的所有権センターもあり、研究開発型ビジネスに最適な環境を備えている。

KSPを構成する3つのタワーについては以下のとおり。

### ①イノベーションセンタービル西棟

かながわサイエンスパークの中心となる10階建てのビル（鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造 地上10階、地下1階）。郵便局、銀行ATM、書店、コンビニエンスストア、各種飲食店といった会議室・ホール・ギャラリーが充実し、宿泊施設やケータリングなどに役立つホテル KSP とともに、解放された都市空間としてビジネスパーソン憩いの場となっている。



また、国際会議やシンポジウムに対応可能な KSP ホール、各種セミナーや会議に便利な貸会議室なども整備。創業間もないベンチャー企業のために、各種・大きさのオフィススペースを用意している。

## ②イノベーションセンタービル東棟

研究所仕様の 6 階建ビル (SRC+S 造 地上 6 階、地下 1 階、塔屋 2 階)。床荷重 500kg/m<sup>2</sup> (1F・2F は 1,000kg/m<sup>2</sup>) とさまざまな重機器に対応、排水、排気等の設備も可能。

## ③R&D ビジネスパークビル (R&D 棟)

12 階建ての大型研究所マルチテナントビル (SRC 造 地上 12 階、地下 1 階)。中央に吹き抜けアトリウムをもち、開放感にある環境のなか、研究テーマ、ニーズにフレキシブルに対応できる建物構造となっている。

上記のように、優れたセキュリティ機能と快適な環境を備えた各ビル内に、様々なタイプのオフィス・ラボスペース (インキュベートゾーン NEO、スタートアップルーム) が用意されている。

図表 インキュベートゾーン NEO (ブース形式) 料金

名称	Dreaming デスク	Starting スペース	Growing ルーム
仕様	専用ワークスペース	個室/オフィス仕様	個室/オフィス仕様
室数 (面積)	3ブース	7室 (約15m <sup>2</sup> )	5室 (約30m <sup>2</sup> )
月額料金 (税抜)	20,000円	60,000円	150,000円
保証金	不要	120,000円	300,000円
入居期間	6ヶ月 (最長1年)	2年間 (最長3年)	2年間 (最長4年)
契約形態	利用権契約	定期借家契約	定期借家契約

資料：かながわサイエンスパーク web ページ

図表 スタートアップルーム料金

名称	オフィスタイプ	ラボタイプ
仕様	個室/オフィス仕様	個室/ラボ仕様
室数 (面積)	27室 (約11~94 m <sup>2</sup> )	34室 (約75~153m <sup>2</sup> )
月額料金 (税抜)	@5,200円/m <sup>2</sup> ・月 (共益費含む)	
保証金	1スパン (75m <sup>2</sup> ) あたり 500,000円	
入居期間	5年間 (最長8年)	
契約形態	一時使用契約	

資料：かながわサイエンスパーク web ページ

図表 スタートアップルーム(KSP-Think※)料金

面積 (m2)	賃料	保証金 (円)
33.45	90,500	350,000
42.53	115,043	450,000
65.61	177,518	710,000
66.91	180,999	710,000
79.35	214,646	840,000
83.84	226,784	890,000
108.23	292,740	1,150,000

※KSPがJFEライフ(株)と提携し、運営しているインキュベート施設

資料：かながわサイエンスパーク web ページ

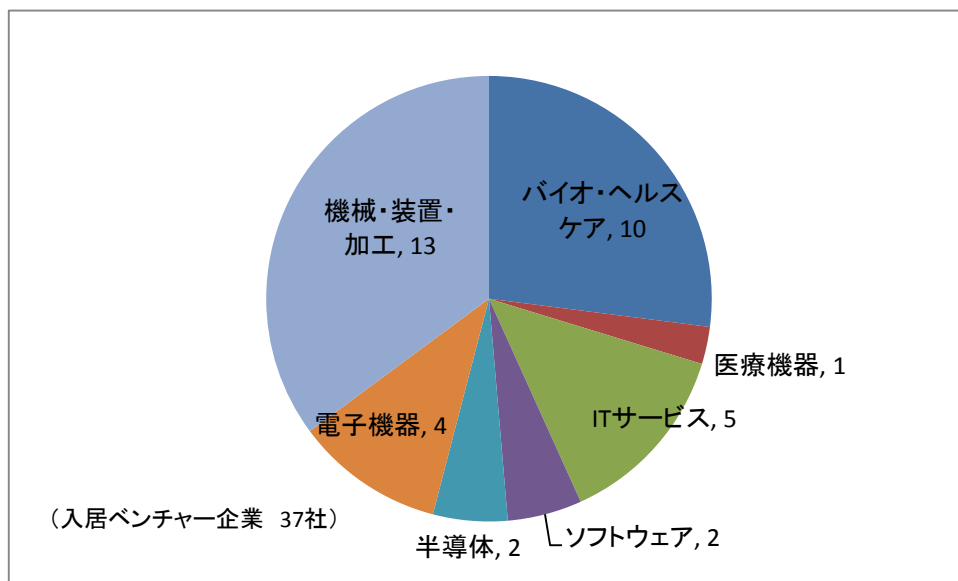
### 3) 立地企業の特徴

KSPは都心から約20分圏内という好アクセスにあり、先端企業や研究機関等の高度集積エリアに立地する、日本初の都市型サイエンスパークとして、その規模は敷地面積約55,000㎡、就業者数は約4,500名と日本最大級を誇る。

入居企業数は114社。うち、インキュベートが36(2016年12月1日では37)、一般企業57、その他21。主な外資系企業として、日本ロレアル(株)、ハーゲンダッツジャパン(株)、(株)ニコン・エシロール、デュポン(株)、ユニリーバ・ジャパン(株)などがある。入居率は75~80%で推移している。

インキュベートに入居しているベンチャー企業については、機械・装置・加工関連が13社と最も多く、バイオ・医療系が11社、IT関連が7社となっている。

図表 かながわサイエンスパーク入居ベンチャー企業内訳(2016年12月1日現在)



資料：かながわサイエンスパーク資料より作成



#### 4) 支援機能等

KSP の管理運営の中核団体である（株）ケイエスピーでは、「創業支援・成長支援・企業家育成」と成長段階に応じた最適なインキュベーションサービスメニューを用意し、20年以上の経験とノウハウを基に、ビジネスの発展を支援している。

また、人材育成に関連した各種事業を展開している。

##### ① インキュベーション事業

###### ● オフィス・ラボ

優れたセキュリティ機能と快適な環境を備えたビル内に、様々なタイプのオフィス・ラボスペースを用意

###### ● ビジネスマッチング

技術系中小ベンチャー企業と中堅・大企業の協業（アライアンス）を通じ、新事業のスムーズな立ち上げ、商品開発のスピードアップなど企業の競争力強化を支援

※全国 100 以上の機関・団体と繋がりをもって実施

※「ビジネスアライアンス研究会」「協創マッチングフォーラム」「大企業ニーズ提示型マッチング」の 3 つの柱で展開

###### ● KSP 投資ファンド

アーリー・ミドルステージを中心に急成長が見込まれるハイテクベンチャーに投資を実施

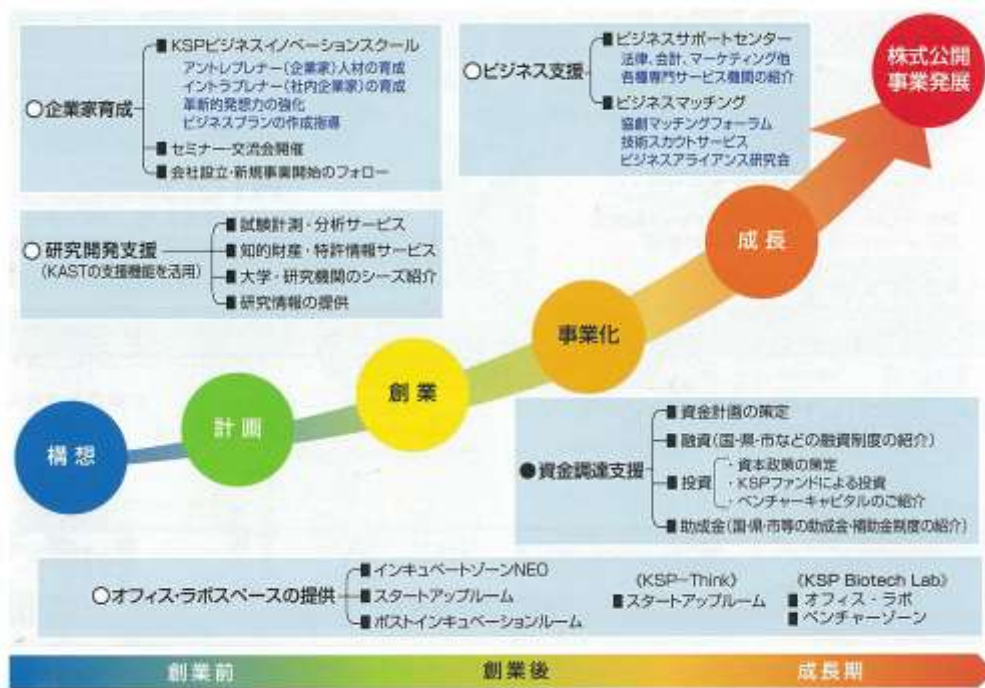
※これまでに 4 つの投資資事業組合(計 50.1 億円)を運営、10 社が株式公開

※1号は 7 億円で投資倍率 4 倍以上、2号は 6 億円で 2 倍以上の投資倍率

###### ● インキュベーションマネージャー

全ての入居企業に対し、資金調達（増資、銀行借入）、販路開拓（顧客、提携先企業紹介）、専門家・専門サービスの紹介等の事業運営をサポート（9名）

図表 (株)ケイエスピーのインキュベーションサービス体系



資料：かながわサイエンスパーク資料

## ②人材育成事業

### ●ビジネスイノベーションスクール

KSP ビジネスイノベーションスクール (BIS) は、ビジネスプラン (事業計画書) の作成・ブラッシュアップをカリキュラムの中心に据え、常に企業活動をトータルな視点から把握することができ、アントレプレナーシップ (企業家精神) に富む「企業家人材」の育成を目指している

### ●女性の活躍推進支援

起業やキャリアアップをする女性のための支援、KSP で働く女性のための支援、また、理系の女性 (理系を目指す女子学生) に対する支援などを通じて、女性が社会で広く活躍できる環境作りに貢献

(4)長浜サイエンスパーク(長浜市)

■施設概要

名 称	長浜サイエンスパーク
所 在 地	〒526-0829 滋賀県長浜市田村町 1281 番地(長浜バイオインキュベーションセンター)
設 立	2002 年
面 積	12.5ha (工業団地 4.6ha)
管 理 主 体	整備主体:長浜市土地開発公社 インキュベーション:長浜バイオインキュベーションセンター
ア ク セ ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大阪から JR 新幹線から在来線へ乗り換えて約 45 分 新快速電車で約 90 分 車で約 1 時間半</li> <li>●京都から JR 新幹線から在来線へ乗り換えて約 30 分 新快速電車で約 60 分 車で約 1 時間</li> <li>●名古屋から JR 新幹線から在来線へ乗り換えて約 30 分 特急電車で約 65 分 新快速電車で約 70 分 車で約 1 時間</li> <li>●東京から JR 新幹線から在来線へ乗り換えて約 155 分</li> </ul>
対 象 業 種 等	バイオテクノロジー関連産業

図表 長浜サイエンスパークエリア図



資料：長浜バイオインキュベーションセンターweb ページ

## 1) 設立経緯

長浜市では「新規バイオ産業等拠点の形成」「産学交流拠点の形成」「人材の育成」「自律した産業拠点の形成」という4つの柱をコンセプトに、平成14年に長浜サイエンスパークを整備。バイオテクノロジー関連産業の集積をはかるとともに、ベンチャー企業などのバイオ産業創出システムの構築を図り、研究開発から生産まで行える新規バイオ産業拠点の形成を目指している。

平成16年7月に長浜バイオ大学とサイエンスパークを区域とする「長浜バイオ・ライフサイエンス特区計画」が滋賀県の「経済振興特別区域制度」認定を受けた（～平成21年）。

## 2) 施設の特徴

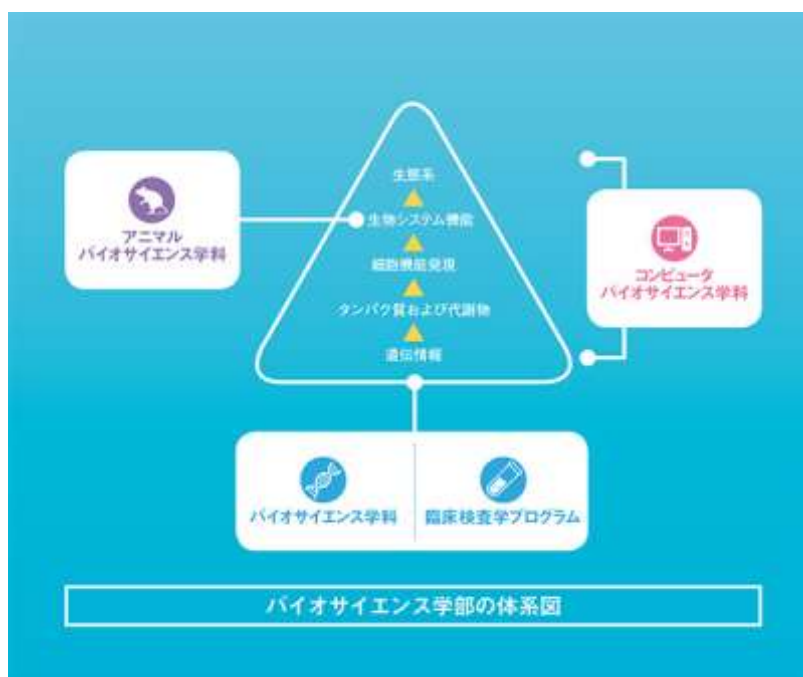
エリア内には日本で唯一のバイオの総合大学である長浜バイオ大学が立地。平成16年にはインキュベーション施設である長浜バイオインキュベーションセンターが設立し、大学等の研究機関の持つ情報、研究成果を技術移転し事業化することで産学交流拠点の形成を目指している。

### ①長浜バイオ大学

生物学はもちろん、医学や薬学、農学、工学、物理学などが学際的に融合した新しい領域の学問であるバイオを、遺伝情報からタンパク質とその代謝物、細胞の機能発現から生物システムの機能、生態系までの各階層を、分子レベルでトータルに学ぶことができる。

また、アニマルバイオサイエンス学科では、生物（個体）に統合されたバイオを学ぶことができる。

図表 長浜バイオ大学学部・学科構成



資料：長浜バイオ大学 web ページ

## ②長浜バイオインキュベーションセンター

長浜市から運営を委託された施設として、事業を志す人に事業開始から成長へ向けて種々の支援を行っている。指定管理者は、一般社団法人バイオビジネス創出研究会。

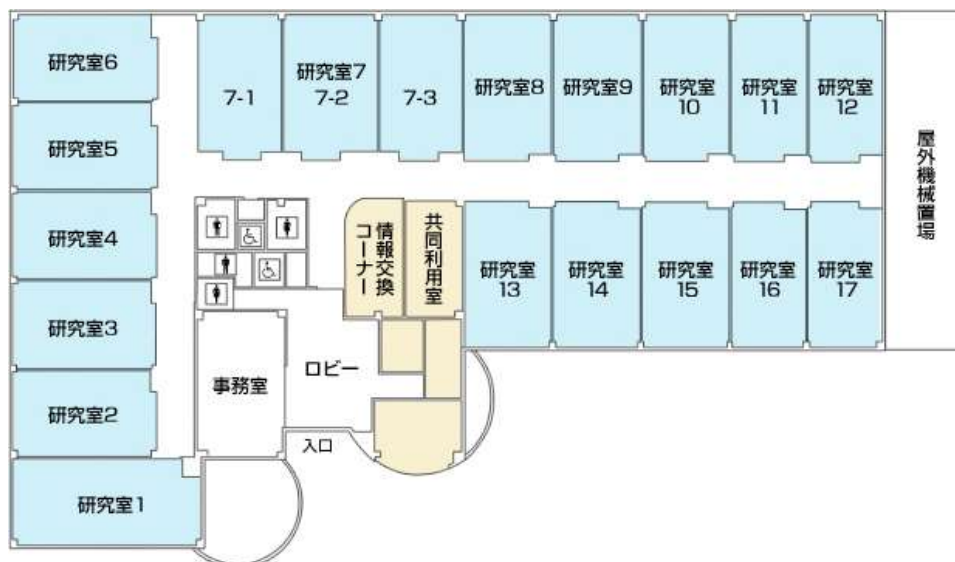
特徴としては、

- ・隣接する長浜バイオ大学のバイオテクノロジーは勿論こと、それ以外にも幅広く「大学の知」と繋がっており、様々な領域に対応
- ・プレ・インキュベーション機能も併せ持ち、まだ明確になっていないシーズをも育てることが可能
- ・既存企業の第二創業を支援
- ・海外に提携機関を持ち、海外販路開拓を支援

があげられる。

施設内には広さの異なる 4 タイプの研究室が合計 17 室あり、ロビーまでのエリアは誰でも入れるが、研究室の廊下へはセキュリティカード所持者（入居者）のみ出入りできる構造になっている。

図表 長浜バイオインキュベーションセンターフロア図



資料：長浜バイオインキュベーションセンターweb ページ

図表 長浜バイオインキュベーションセンター研究室諸元

室タイプ	A	B	C	D
面積	78m <sup>2</sup>	60m <sup>2</sup>	51.5m <sup>2</sup>	180m <sup>2</sup>
室数	1	11	4	1
入居料（1ヶ月）	179,400円	138,000円	118,450円	414,000円
天井高	2.7m			
耐床荷重	300kgw/m <sup>2</sup> （≒3,000N/m <sup>2</sup> ）			
床仕上	帯電防止ビニル床シート			
壁仕上	化粧ケイカル板			
天井仕上	ケイカル板 EP			
開口部	親子戸（セミエアタイト）W=1.2m H=2.1m			
分電盤	室内各1面 H2.7m 天井上部開口			3面
単相100/200V	15KVA（予備回路4）			15KVA_3
3相200V	15KVA（予備回路1）			15KVA_3
照明・照度	Hf蛍光灯 900Lx			
空調設備	冷暖房（GHP・各室独立） 換気設備（熱交換式）			
ガス	床面5ヶ所バルブ止め			
給水	床面5ヶ所バルブ止め			
排水	床面5ヶ所隠ぺい（全室地下ピット有） PH中和処理装置を経由して長浜市設下水道に接続			
特殊廃液等	特殊実験廃液等は法令に基づく適切な処理を入居者で対応			
電話回線	入居者工事（建物内引込済） 全室来客用インターホン有			
インターネット配線	入居者工事（CAT6対応予備線有） （フレッツひかりプレミアム・マンションタイプ引込済）			
TV回線	CATV、U・VHS+BS対応端子設置			
セキュリティシステム	研究施設区画へはIDカード 各研究室にはIDカード+暗証番号入力 廊下に24時間監視カメラを設置 建物全体には空間センサーによるセキュリティ導入			
その他	自家発電設備（各室1系統配線） P2レベル実験対応、放射線利用実験は不可			

資料：長浜バイオインキュベーションセンターweb ページ

### 3)立地企業の特徴

平成 21 年に工業団地全区画に企業が進出。現在 6 社が製造、研究等の事業活動を行っている。

図表 長浜サイエンスパーク立地企業一覧

イオンディライト株式会社	「環境価値」創造を担う技術者・研究者等の人材育成に向けた高機能型教育施設「イオンディライトアカデミーながはま」を設立
マリンフード株式会社	業務用を中心にマーガリン、チーズ、ソース、ジャムなどの製造・販売を手がけており、サイエンスパークではマーガリンやチーズなどに類する新製品の製造、開発、研究を行う
山岡ヤマゼン株式会社	リサイクルが可能な産業資材の再生・洗浄を手がけており、微生物殺菌技術を取り込んだ洗浄・除菌技術の開発を始め、検査体制向上のための開発センターを設立
星野科学株式会社	発酵、酵素分解技術を用いて果実のペースト化などを研究。摘果ミカンなどを皮ごとペースト化し、飲料やアイスクリーム、調味料の原料などとして販売する
マルホ株式会社	皮膚関連の創薬を技術基盤に、医薬品の研究、製造、販売を手がけており、皮膚の保湿剤や乾せん治療剤など医療用外用剤の製造や、新薬の研究・開発を行う
ピアスグループ サイアヤファーマ株式会社	「美容と健康」をテーマに、これまで培ってきた製品とサービスを活かし、高級化粧品、医薬品、健康食品の製造販売を行う

資料：長浜バイオインキュベーションセンターweb ページ



長浜バイオインキュベーションセンターの研究室には、市内外企業が入居しているほか、地域経済を活性化させようとする観点から、1室をコワーキングスペースに改造し、事業支援を行っている。(原則1年単位で交代)

図表 長浜バイオインキュベーションセンター入居企業概要

企業名	概要
株式会社フィジカル	健康、美容商品の企画開発 顔ダニ製品の新規開発、販売
株式会社宝樹	予防医療を目指した水素水の開発及び水素水製造装置の開発事業
株式会社ワンセル	組織再生と体質改善を促す機能性分子を含む商品群の開発・製造・販売
株式会社フロンティアファーマ	分子標的抗がん剤の創薬、創薬・診断薬の新規基盤技術の開発
株式会社バイオセラピーメディカル	難治性創傷治療用ウジ事業及び有効成分の研究事業
ジーワン株式会社	予防医療のためのデータベース構築と環境配慮型データセンターの構築
株式会社橋本クロス	実用可能な殺菌用バイオエタノールの研究及び製造
株式会社山正	艾製造に伴うヨモギ残渣を活用した健康食品関連開発及び「伊吹艾」のブランド化。独自ヨモギ栽培技術の確立等。
ジーズアップ株式会社	染毛剤・化粧品の開発
からだ元気治療院	高齢者向け、健康関連産業(リハビリ、健康食品等)の事業化及び研究開発事業
株式会社明豊建設	効果的なコケ緑化ビジネス形成を目指した緑化用コケの製造技術開発

資料：長浜バイオインキュベーションセンターweb ページ

#### 4) 支援機能等

インキュベーション施設である長浜バイオインキュベーションセンターにおいて、創業支援、事業支援に関連した各種取り組みが実施されている。

##### ① 創業支援

創業に関する知識ノウハウの習得など、創業に意欲のある方々と一緒に切磋琢磨しながらステップに応じて学ぶ場所を提供している。

###### ●step1 知識の習得

- ・ながはま・こほく創業塾の開催

基礎編で基本的な知識を学び、実践・応用編ではより具体的な内容で、起業してからすぐに役立つ知識をゼミ形式で学習

- ・新しいツールの活用 (3D プリンタ)
- ・ビジネスプラン発表

ビジネスプランコンテスト出場に向けたサポートを実施

###### ●step2 事業ヒントの提供

- ・ビジネスカフェの開催

アグリ分野、バイオ分野、地域資源の活用、地域課題解決など、様々なテーマでビジネスカフェを開催し、事業アイデアに繋がる情報を取得

### ●step3 起業支援

- ・ 専門家によるハンズオン支援  
地域事業化プロデューサーによるハンズオン支援を行います。
- ・ 会社設立時の登録免許税減免措置  
会社設立時の登録免許税の軽減（資本金の 0.7% → 0.35% 最低税額 15万円 → 7.5万円に減額）
- ・ 長浜市起業支援事業補助金
- ・ インキュベーション施設の入居

### ●step4 つながりづくり

- ・ 滋賀県内支援機関との連携
- ・ 公的施策活用
- ・ 企業間や大学とのマッチング

### ●step5 テスト販売

- ・ アンテナショップ
- ・ 地域イベント
- ・ 展示会
- ・ 市場調査

## ②事業支援室 openjoynt(オープンジョイント)

これまで長浜バイオインキュベーションセンターが行ってきた起業支援の経験を活用し、新事業を始める地域の人を対象とした起業支援をすることで、地域産業の振興や雇用を創出することを目的に、設置。

創業希望者、新事業にチャレンジする企業、第二創業希望者、コミュニティビジネスを始めたい方、1次産業の6次化などあらゆる方が利用可能。

事業支援室には、専任のインキュベーションマネージャーが常駐しており、「やりたいことはあるけれど、何から始めればいいのかわからない」という方でも、事業計画書を作成したり、構想を練ったりなど、各自の事業を推進する上で必要な作業をサポートする。

また、この部屋を異なる分野の起業家達が共同で使うことで、切磋琢磨し互いの事業の発展が加速したり、新しいコラボレーションが生まれたりすることも狙いの1つとなっている。

上記のほか、長浜市、長浜バイオ大学、バイオビジネス創出研究会、長浜商工会議所、浅井商工会、びわ商工会が長浜でのバイオ関連産業クラスターの形成・発展を目指し設置した、産学官連携による支援体制「長浜バイオクラスターネットワーク」により、長浜サイエンスパーク内の大学・企業シーズを活用しつつ、地元企業と連携して必要な支援事業を積極的かつ機動的に行い、産業振興及び地域振興に生かすためのプロジェクトが展開されている。



(5) 札幌テクノパークとの比較

以下に、札幌テクノパークと他都市の類似施設との比較を示す。

	札幌テクノパーク	京都リサーチパーク	ソフトピアジャパン	かながわサイエンスパーク	長浜サイエンスパーク
設立	1986年	1989年	1996年	1989年	2002年
敷地面積	28.2ha	5.6ha	12.7ha	5.5ha	12.5ha
管理主体	札幌市	京都リサーチパーク株式会社 (大阪ガス都市開発(株)100%出資)	岐阜県(分譲) (公財)ソフトピアジャパン(運営)	(株)ケイエスピー等	長浜市土地開発公社(整備主体) 長浜バイオインキュベーションセンター(インキュベーション)
主なアクセス手段	JR新さっぽろ駅からバスで15分 札幌駅から新さっぽろ駅までJR14分 新千歳空港から新さっぽろ駅までJRで約30分	JR丹波口駅から徒歩5分 京都駅から丹波口駅までJRで3分 京都駅からタクシー 約10分	JR東大垣駅から車 約10分、バス 約15分	東急溝の口駅/JR武蔵溝ノ口駅 徒歩約15分 KSP行き無料シャトルバス 約5分	JR田村駅すぐ JR新幹線から在来線へ乗り換えて 大阪から約45分 京都から約30分 名古屋から約30分
対象業種	ソフトウェア技術、システム技術の研究開発を行う企業	—	情報産業分野	バイオ、IT、半導体、エレクトロニクス、メカトロニクス等のスタートアップ、大手企業の研究開発型 等	バイオテクノロジー関連産業
支援機能等	札幌市エレクトロニクスセンターによるインキュベーション(IT、バイオ)セミナー、他産業とのマッチング等IT活用支援	KRPでは経営・技術・特許等にかかる相談から人材育成支援までの多彩なサービス、民間運営ならではの柔軟な発想と、グローバルネットワークが特徴	(公財)ソフトピアジャパンでは、地域産業の高度化を担う人材育成・供給、ITによる生産性向上や商品の競争力向上を目指した産業の情報化等に取り組んでいる	中核団体である(株)ケイエスピーが、「創業支援・成長支援・企業家育成」と成長段階に応じた最適なインキュベーションサービスメニューを用意	インキュベーション施設である長浜バイオインキュベーションセンターにおいて、創業支援、事業支援に関連した各種取り組みを実施
入居企業数	立地企業 37社 エレクトロニクスセンター入居 13社	入居企業 約380社	立地企業 約150社	ベンチャー入居企業 51社 一般入居企業 27社(web掲載数)以上	立地企業 6社 インキュベーション入居 11社
特徴等	○情報通信関連の産業を新たな都市型先端技術産業として定着させ、次代を担う主力産業に育成することを目的に、札幌市が全国に先駆けて整備した研究開発型の団地	○オープン当初はIT系が多かったが、近年は再生医療に力を入れていることから製薬系が増えている ○エリア内には支援機関も立地	○中部圏の一大IT拠点であり、情報産業を育成、振興、集積するエリアに、高度IT人材育成拠点となるIAMASをはじめIT関連企業が集積し、産業、教育、福祉等あらゆる分野の情報化の実現を目指している	○関係団体や大学等と連携・協調し、研究会、セミナー、企業交流会の開催等ほか、最新のビジネステクノロジー、学術情報の提供を積極的に行なうなど、新産業の創出に向けた知と情報の発信拠点となっている。	○エリア内に日本で唯一のバイオの総合大学である長浜バイオ大学が立地 ○大学等の研究機関の持つ情報、研究成果を技術移転し事業化することで産学交流拠点の形成を目指している

### 3. 札幌テクノパークの強み・弱み

現状分析並びに他都市関連施設の比較等を踏まえ、札幌テクノパークの強みと弱みについて、以下に取りまとめる。

#### <強み>

- 札幌市のハイテク（ICT）の拠点として ICT 企業が立地。現在も ICT 産業を支えている
- テクノパークフェスタ等イベントにより周辺住民に存在が認知されている
- 道外自治体、議会等からの見学希望がある（注目されている）
- 共同開発など、エリア内で企業間連携が物理的に実現しやすい
- 自然が豊かで、施設内に娯楽施設、商業施設等がないため、研究・開発に没頭できる（最寄りの新札幌の駅、商業施設等との適度な距離感）
- 札幌市エレクトロニクスセンターが立地し、安価な会議施設もあり、インキュベート機能が充実
- 新千歳空港へのアクセス面で中心部よりも利便性が高い
- ドローンの制限エリアから外れている敷地の確保が可能

等

#### <弱み>

- 札幌中心部から離れている
- 空き地が目立つ（土地は購入しているが建物が無い、撤退企業もある）
- 公共交通機関のアクセスが限られているので、突発的な事象への対応が遅れることがある
- テクノパーク全体の施設の老朽化
- 入居企業同士のアライアンスの不足（例：立地 ICT 企業とエレセン入居のバイオ企業との相乗効果が未知数）
- 生活環境（商業施設、飲食施設、娯楽施設等）の未整備（食堂以外に息抜き場がない）
- 閉鎖的、隔離的な空間のイメージがある

等

## Ⅱ 企業のニーズ調査

### 1. 上場企業の意向調査

新たな ICT 等先端技術の研究開発動向や拠点新增設等に関するニーズ、札幌テクノパークへの誘致可能性や課題等を把握するために、道内外の上場企業にアンケート調査を実施した。

以下にその概要を示す。

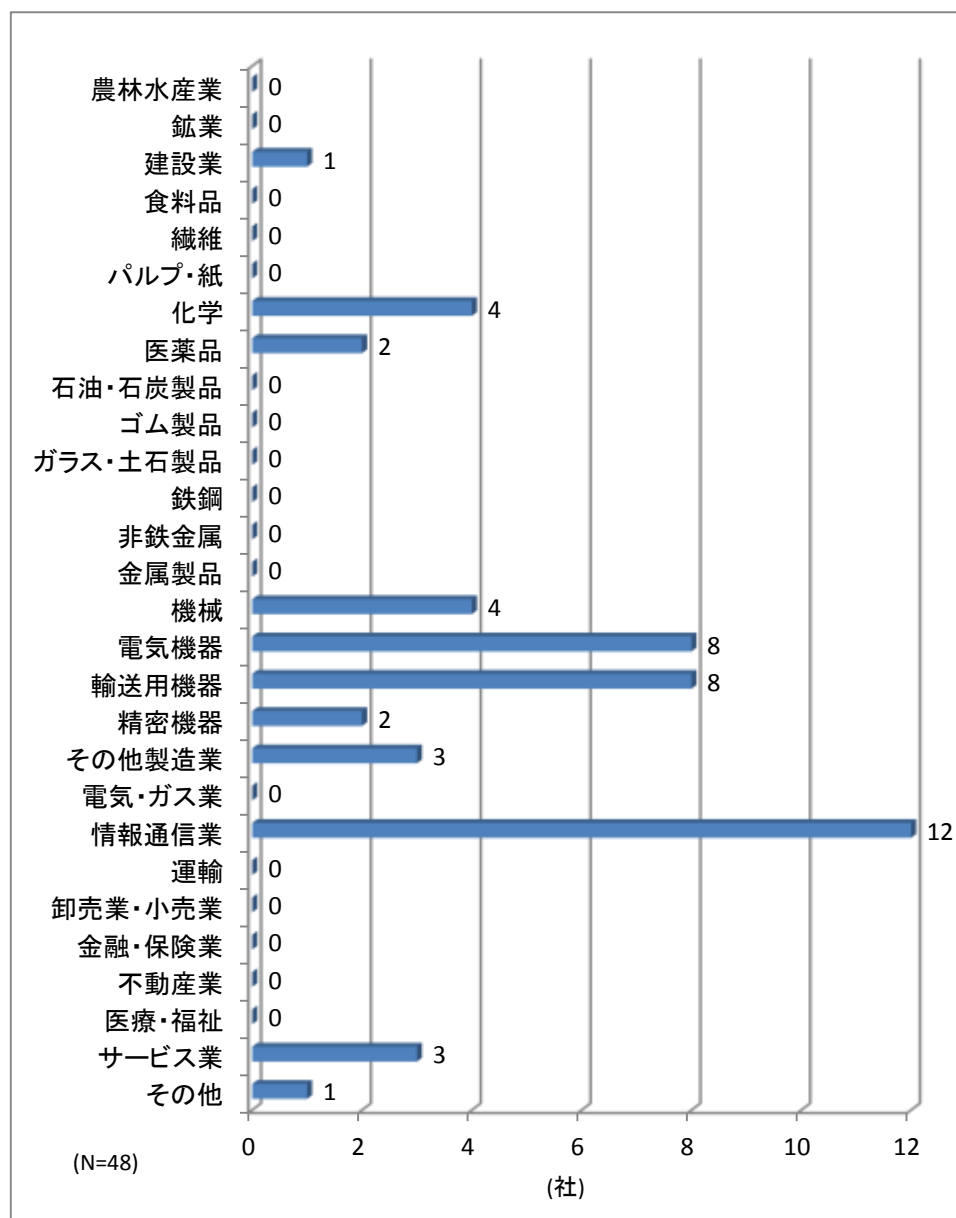
- 調査方法：郵送発送・郵送回収によるアンケート調査
- 実施時期：1月
- 調査対象：国内の上場企業のうち、ものづくり、IT、食・バイオ等 1,000社
- 回答企業：有効調査サンプル数 48件（回収率 4.8%）
- 調査項目：
  - ①回答属性（業種、資本金規模、従業員規模、直近売上規模、売上に対する研究開発費の割合）
  - ②研究開発拠点（研究所、研究部門）の新設・増設意向
  - ③新增設に際して重要視する条件（新增設決定、検討中の企業のみ）
  - ④研究施設外（屋外、別施設）でのフィールドテストを実施する場所の確保状況
  - ⑤札幌テクノパークの研究開発機能移転の可能性
  - ⑥札幌テクノパークの実証実験フィールドとしての可能性
  - ⑦札幌テクノパークに期待すること

## (1)回答属性

### 1)業種

回答企業 48 社の業種については、「情報・通信業」が最も多く 12 社、次いで「電気機器」「輸送用機器」がどちらも 8 社となっている。

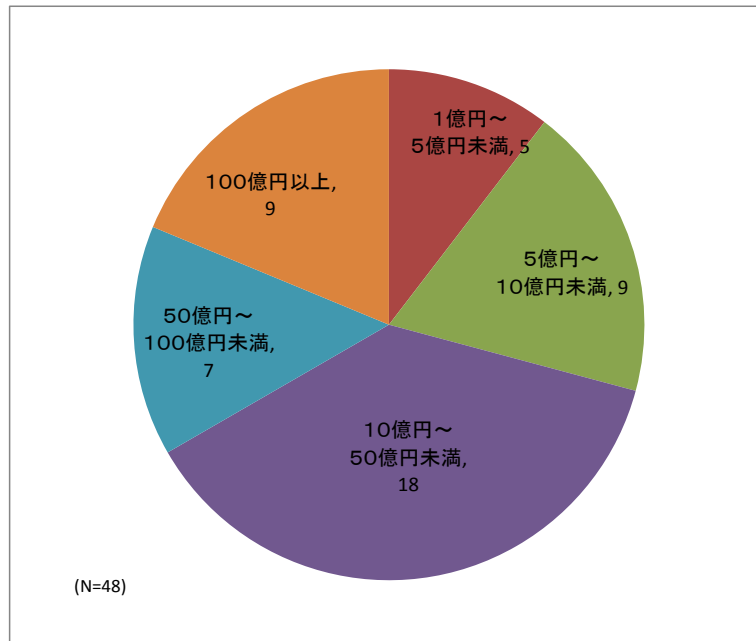
図表 回答属性(業種)



### 2)資本金規模

資本金規模は「10 億円～50 億円未満」が 18 社と最も多く、次いで「5 億円～10 億円未満」「100 億円以上」がそれぞれ 9 社となった。

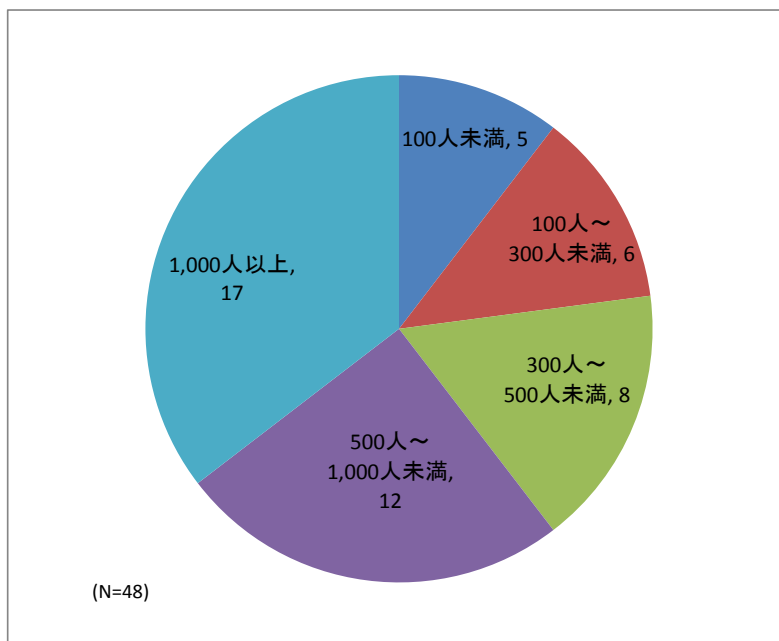
図表 回答属性(資本金規模)



### 3) 従業員規模

従業員規模は「1,000人以上」が17社と最も多く、次いで「500～1,000人未満」(12社)、「300～500人未満」(8社)となった。

図表 回答属性(従業員規模)

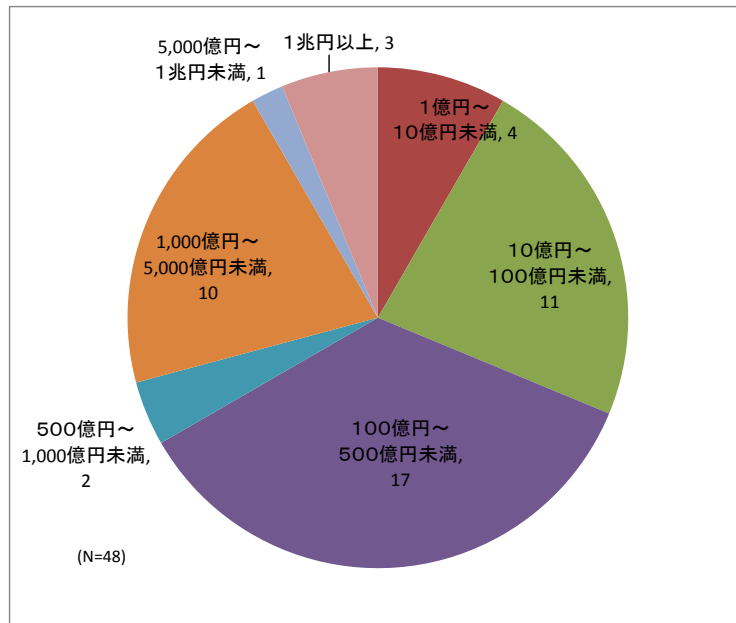


### 4) 売上規模

直近の売上高規模では「100億円～500億円未満」が17社と最も多く、次いで「10億

円～100 億円未満」(11 社)、「1,000 億円～5,000 億円未満」(10 社) となっている。

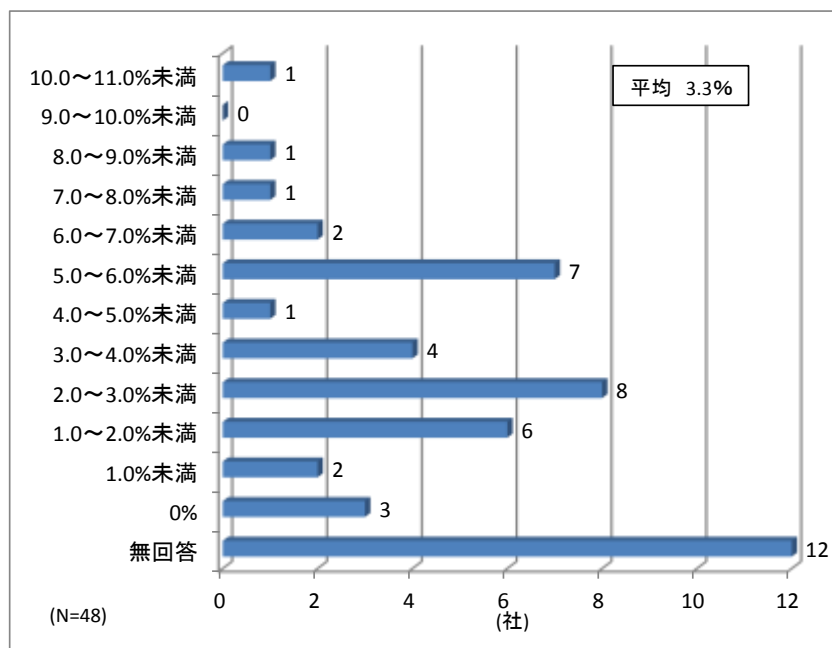
図表 回答属性(売上規模)



### 5) 研究開発費の割合

売上に対する研究開発費の割合を数値で尋ねたところ、無回答が 12 社と最も多かったが、回答企業 36 社では「2.0～3.0%未満」が 8 社と最も多く、次いで「5.0～6.0%未満」(7 社)、「1.0～2.0%未満」(6 社) となった。単純平均では 3.3%となった。

図表 回答属性(研究開発費割合)

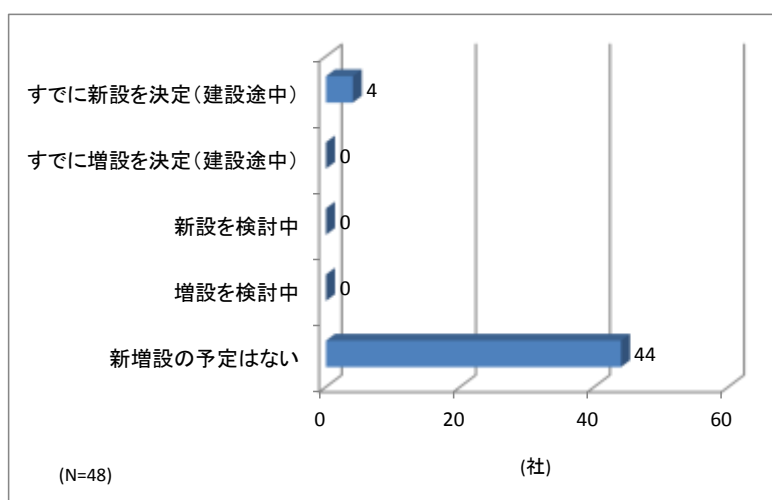


## (2) 研究開発拠点について

### 1) 研究開発拠点(研究所、研究部門)の新增設意向

研究開発拠点(研究所、研究部門)の新設・増設を検討しているか尋ねたところ、回答企業の中でほとんどの企業(44社)が「新增設の予定はない」との回答だった。残りの4社については「すでに新設を決定」との回答であった。

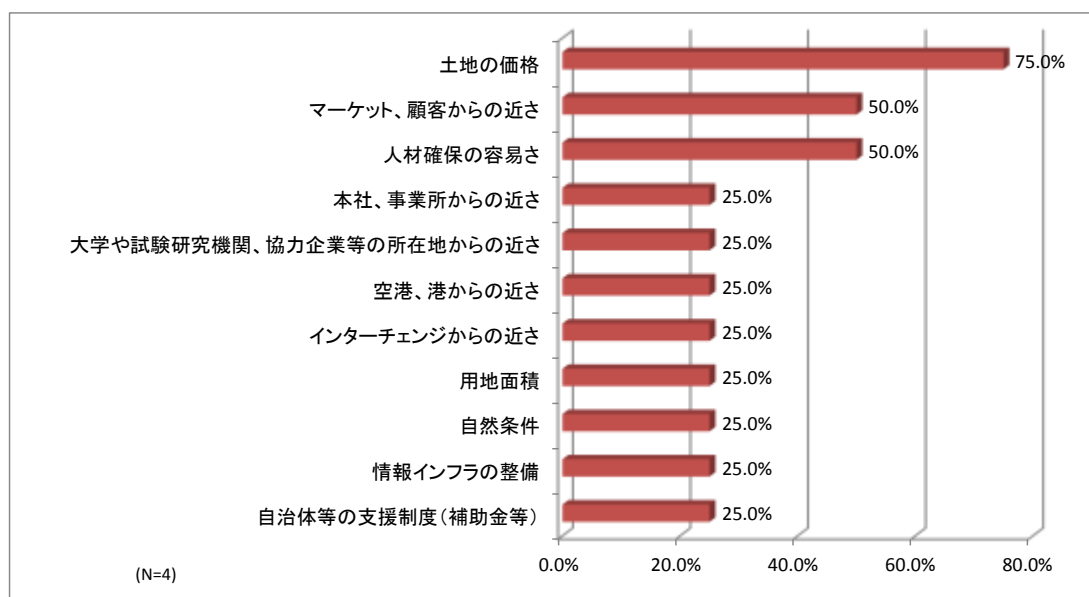
図表 研究開発拠点の新增設意向



### 2) 新增設に際して重要視する条件

上記設問で「新增設決定」「検討中」と回答した4社について、重要視する条件を尋ねたところ、母集団が少数でありあくまで参考となるが、「土地の価格」を3社があげ(75.0%)、「マーケット、顧客からの近さ」「人材確保の容易さ」をそれぞれ2社があげた(50.0%)。

図表 研究開発拠点の新增設で重要視する条件

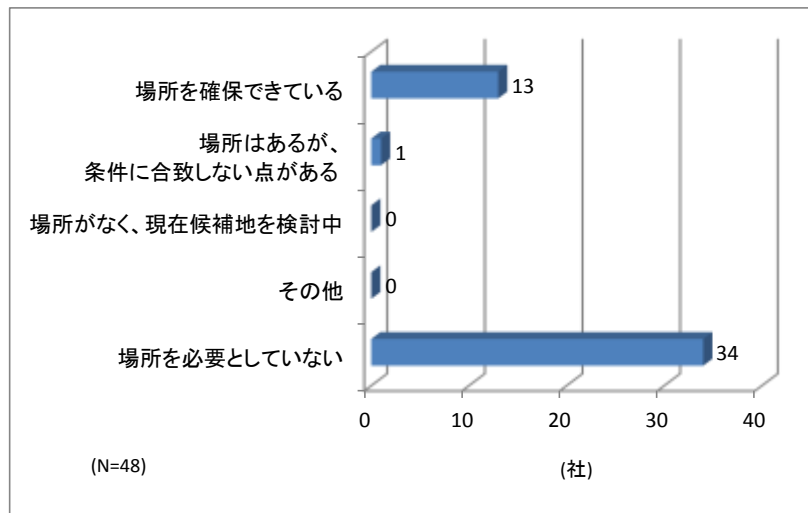




### 3) 研究施設外(屋外、別施設)でのフィールドテストを実施する場所の確保状況

自社の最新技術等の研究開発において、研究施設外(屋外、別施設)で走行実験や住民への社会実験等、フィールドテストを実施する場所が十分確保されているか尋ねたところ、「場所を必要としていない」との回答が34社と多数を占めた。「場所を確保できている」が13社、「場所はあるが条件に合致しない点がある」が1社となった。

図表 フィールドテストを実施する場所の確保状況

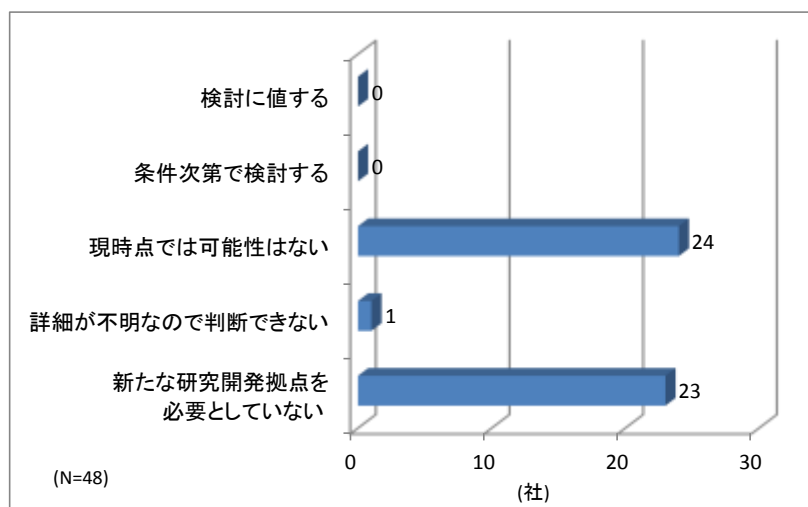


### (3) 札幌テクノパークへの進出可能性

#### 1) 札幌テクノパークの研究開発機能移転の可能性

札幌テクノパークの特徴を踏まえて、札幌テクノパークに研究開発拠点の立地可能性があるか尋ねたところ、「新たな研究開発拠点を必要としていない」が23社と最も多く、「現時点では可能性はない」が24社、「詳細が不明なので判断できない」が1社であり、今回の回答企業については、ほとんど進出可能性がない結果となった。

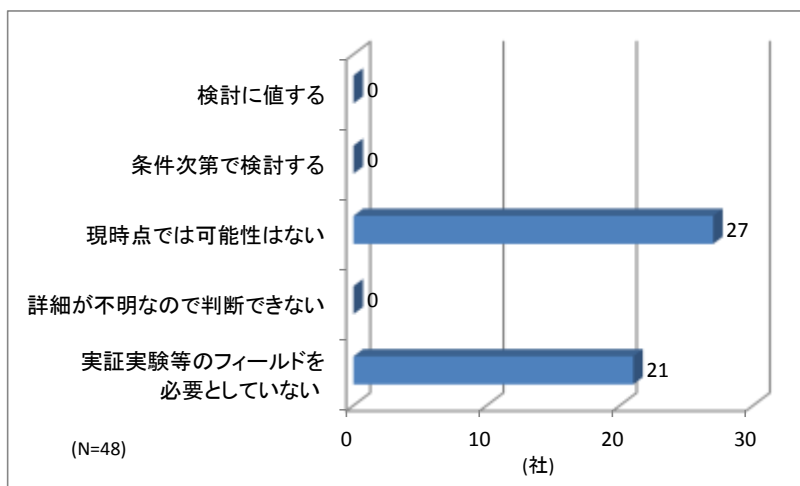
図表 研究開発機能移転の可能性



## 2) 札幌テクノパークの実証実験フィールドとしての可能性

札幌テクノパークの特徴を踏まえて、札幌テクノパークを実証実験などのフィールドとして活用する可能性があるか尋ねたところ、「現時点で可能性はない」が 27 社と最も多く、「実証実験等のフィールドを必要としていない」が 21 社であり、研究開発機能の移転同様に、実証実験フィールドとしても、今回の回答企業については可能性がない結果となった。

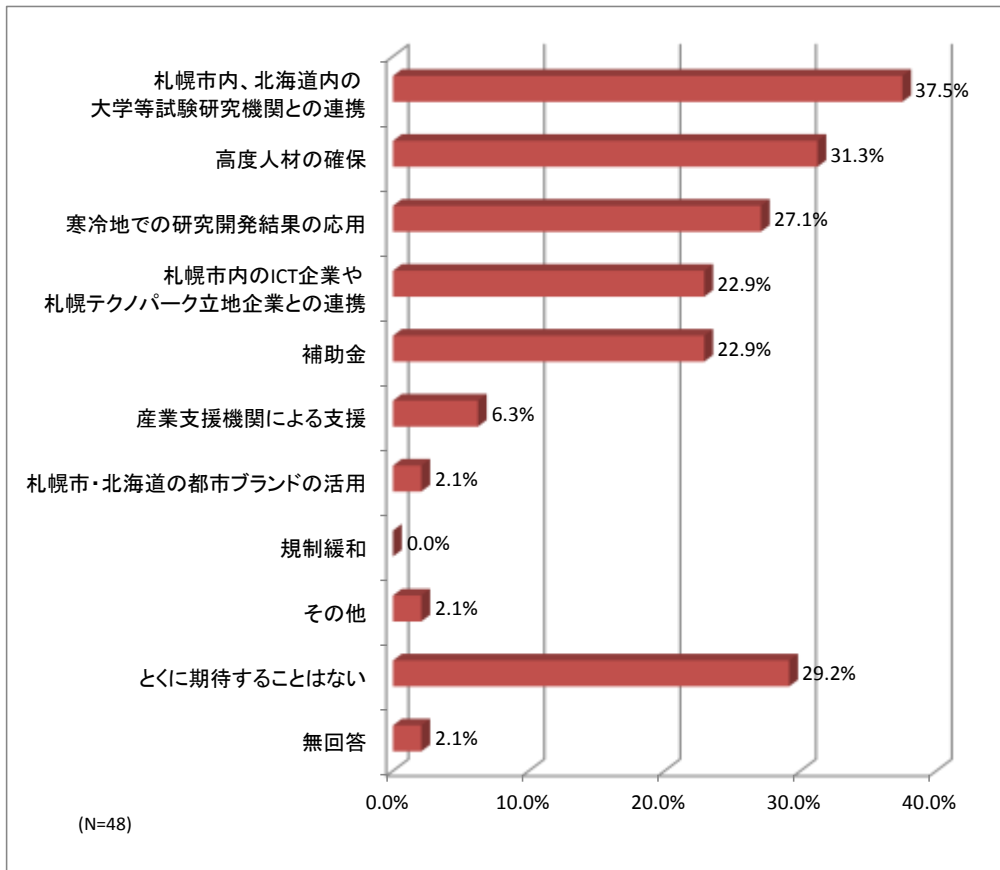
図表 実証実験フィールドとしての可能性



## 3) 札幌テクノパークに期待すること(複数回答)

仮に札幌テクノパークに拠点を立地したり、実証実験等のフィールドとして活用をする場合、期待することは何か尋ねたところ(複数回答)、「札幌市内、北海道内の大学等試験研究機関との連携」が 18 社(回答率 37.5%)と最も多く、次いで「高度人材の確保」(15 社、31.3%)、「寒冷地での研究開発結果の応用」(13 社、27.1%)、「札幌市内の ICT 企業や札幌テクノパーク立地企業との連携」「補助金」(どちらも 11 社、22.9%)となった。

図表 札幌テクノパークに立地した際に期待すること



## 2. 入居企業のニーズ調査

札幌テクノパークに必要な機能や企業内連携の課題等を把握するために、立地している企業（札幌市エレクトロニクスセンター入居企業含む）に対してヒアリング調査を実施した。

以下にその結果を示す。

### (1)A 社

#### ①テクノパーク内企業連携意向

- 入居企業と話すことはない。横との繋がりは求められるかもしれないが、できていない。賀詞交換会くらい。日常そのような場所はない。
- 集まれる場所や場があれば集まれる。
- 入居企業内で人材の貸し借りをできればいいのだが。繁忙期がずれていれば、うまく調整できるのではないか。
- 共同で開発案件ができる場があればいい。しかし、お互いどのような仕事をしているか知らない。当社はそれなりの自由度はある。自社サービスも持っているので、ここの人材の融通は利く。
- 具体的な連携だが、自社で請け負った仕事を手伝ってもらうことでもいいし、一つの案件を共同開発しても良い。これがテクノパークに入居するメリットになると思う。
- 社内だけでは新しい技術の取組に時間がかかる。お互いのノウハウを共有できればいい。
  
- 札幌だからという志向は現時点はあまりない。web の開発メインで事業展開している。個人的には IoT 関連の分野もやりたいと思う。
- 北海道にいたのであれば、北海道に貢献できる仕事はしたい。農業や畜産など。現状は全く付き合いがない。ハード的な部分もあり、難しいと思っている。技術はどちらも持っているのでアイデアが勝負。ただ、どちらの企業も農業分野の知見がない状況なので動けていない。

#### ②コミュニケーションの場の必要性

- 夕方やランチを食べながらの研修会や勉強会は社員が参加しやすいかもしれない。
- 街中で開催される勉強会等はよくあるが参加しづらい。
- ビアパーティは参加している。かつてはポンノッポロ祭があり、屋台を出すなど、地域の人を巻き込んでやっていたが、このイベントは復活すれば良いと思う。住吉神社と連動して、若手のやる気のある人が会を組織して取り組んでいた。残念ながら数年前に解散。予算的な問題もあったかもしれない。
- テクノパークフェスタは、ちょっと真面目。食べ物も出さない。参加企業も少なくなってきた。

#### ③交通インフラ

- 仕事が東京案件なので、札幌案件の数は多くないが、営業所という視点ではこの場所ばかり。
- 9割車。車通勤しかできないこともネックではある。

#### ④その他課題・ニーズ

- 徹夜はまれ。当施設には仮眠室として和室がある。シャワー室もある。
- その他、とくに求めるものはイメージできない。

## (2)B社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- テクノパークへの要望を社員からアンケートで聞き取りした。
- 造成当初は、財団と産官学の研究会を立ち上げて、寄り合い所帯の企業と大学を結びつけながら動いていた。
- かつては CAD/CAM 研究会、人工知能研究会というのもあった。試しに何かを作ったり、宿題を企業が持ち帰ったこともあったのだが。
- ただ、いまいるメンバーはそれを知らない。やっても目立っていない。やっているのであればもっとアピールした方がいい。
- テクノパーク協議会への参加の意欲も弱まってきている。10年前に、広報委員会がもっとテクノパークをアピールしようという動きが「IT アライアンス」のマークも作った。経産省の予算も引張ったこともあった。ただ、予算的な継続性や、水産関連が業種として難しかったようで、続かなかった。
- 当時はニュートラルの川辺社長が音頭を取っていたが、いまはそういう人もおらず、類似の取組は進められていない。
- テクノパークについては、切り口は共同事業、共同研究だろう。
- 当社は、メーカー系の受託開発がメインだが、それとは別にエンドユーザーの提案コンペにチャレンジしているところ。自社のパッケージも広げて行きたいが、この部分は他社と組んでやっていきたい。写真を活用した C to C 的な取組も実施しているところ。
- 社員の7割が北海道出身者。しかし3割しかここにいない。北海道に戻りたいし、北海道の役に立ちたいと思っている。首都圏に圧倒的に仕事がある中で、何かしないといけない。バイオとの連携も北海道の中でしていく方がいいと思う。
- 大企業ではなく、中堅どころがぱっと集まり、そこから何かが生まれるようになればいい。

### ②コミュニケーションの場の必要性

- ビジネス的な部分でいえば、研究会、研修会があると思うが、もっとエンジニアが行きやすい会合があるといい。いまは経営者向けも多く、参加しづらい。
- エレセンにコワーキングスペースがあるといい。そこで、ちょっと勉強して帰ったり、そこで勉強会があってもいい。
- テクノパーク在住のエンジニアがコミュニケーションが図れるといい。かつてのビズカ

フェのようなエンジニアの相互交流ができる場が欲しい。市内中心部では類似の場があるが、参加しづらい面もある。せっきやくスペースもあるのだから、エレセンでやってみてはどうか。遊休スペースの有効活用になるだろう。

○社内では勉強会はやっているが、社外の刺激が欲しい。

### ③交通インフラ

○社員の2/3が車出勤、地下鉄・バスが1/3。かながわサイエンスパークは駅前からシャトルバスが出て定期的に循環している。あのようなものがあると良い。

○テクノパーク内のバス停は外にある。もっとエレセンの中で待てるようにして欲しい。近くまで来たらアラームを出すことでも良い。

○施設間を直線で結ぶ歩道あれば便利。

### ④その他課題・ニーズ

○エレセンにジム、温泉、社食等、企業共用スペースがあってもいい。健康面でのニーズはある。市営の体育館に寄っていく社員もいるが、近くにそのような施設があるといい。ここで働きたい！と思うような設備があると良い。ワクワクする設備や事業があると良い。

## (3)C社

### ①テクノパーク内企業連携意向

○広いスペースでやれる仕事はメリットがある。セキュリティ環境も強固に出来る。これを求める顧客にはメリットがある。

○現状では、テクノパーク内の企業との横の繋がりはない。当社の仕事を協力会社として出していることはある。

○他社が何をしているか、何ができるかをあまり知らない。当社の中でも興味を持っていない。

○テクノパークにある会社の技術を組み合わせ、連合体として受注するような仕組みもあればいい。当社は大学と組んで共同研究した実績はあるが、札幌ではおそらくないだろう。

○人材は不足している。テクノパーク内での人材のシェアはセキュリティ面でクリアできれば有用かもしれない。

○テクノパークにある会社の連合体でITサービスを提供できる仕組みもあればいい。

○共同ラボ（ドローン試験飛行エリアや電波暗室）や、ものづくりオフィスの設置。

### ②コミュニケーションの場の必要性

○機能活性化や地域交流としては、会社間の技術交流の場が欲しい。いまはなかなか無いという認識。ビアパーティのような仕掛けがもっとあると良い。ポンノッポロ祭は企業が知り合える場だった。

○オープンスペース（会議室、応接室など）の提供（レンタル等）

- テクノパークをどうしていくべきかといった議論を、各社で集まって議論すること自体も交流の場として機能するのではないか。

### ③交通インフラ

- ビジネスパートナーを探すときも場所的に不便ということで実現できないこともある。もう少し交通インフラで便利になればいいと思う。
- 新さっぽろとの循環バスの無料化、自動運転などの先進的取組もあっていい。テクノパークという場所的にこのような取組をしても良いと思う。採用活動をしていても、テクノパークを知られていないこともある。PRしていけると思う。
- その他、バスの増便、待合所充実、遊歩道との接続延伸、地下鉄延伸などできれば良い。
- 無料駐車場（テクノパーク企業、派遣社員、研修、セミナー時にも無料提供）。
- 通勤時間帯以外のバス小型化も検討してはどうか。

### ④その他課題・ニーズ

- テクノパークの労働量人口増加のためには、施設の充実が必要。コンビニ、食事施設（バー）、保育施設、フィットネス、医療施設（内科、歯科）、宿泊施設、アウトレットモールなど。食堂のメニュー改善（サンドイッチ、おにぎり等、コンビニの代替）も希望。
- 産学連携のイベントや、展示会、セミナーの定期的開催、開催頻度の増加も検討すべき。
- 地域の子供や学生と連携したセミナーやイベント。
- ITの体験施設（VR、超ハイビジョン、超高速通信など）
- 税制面での優遇。

## (4)D社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- テクノパークのあり方という意味からすると、企業の集合体と地域としての役割を考えるべきだと思うが、個人的な意見だが、情報関係の会社がある程度固まっている効果として連携したビジネスがあるかというと無い。
- 元々期待されていたことは、同業の集積でビジネス上のシナジーが生まれ、ひいては札幌にITが盛り上がることだったと思う。ただ、ビジネスをするうえで近くにいるからといって、そこで仕事生まれるか。正直、近いだけでは何も起こらないと実感している。
- ビジネス上で何かが起こるといことは、どちらかがどちらかの技術や商品を買うか、売るかの関係だろう。我々はITなので、開発する中で、自社にない技術を持っている会社を組み込んでいくが、そこに会社間の距離はあまり関係ない。札幌と九州で比べて、九州の企業を選ぶこともある。どちらも同じであれば、札幌を優先することはあるが。
- 現状でも、近隣の企業と横の繋がりほとんどない。
  
- ただし、本業とはちょっと違うが、単独でやるにはボリュームや技術が足りない案件は一緒にやれる可能性がある。研修や教育もこれに当てはまる。当社では自社でやること



もあれば、リクルート等の外部の公開研修に派遣することもあるが、既存ではなくオーダーメイドの研修があるといいと思っている。個別に講師を派遣してもらえばコストもかかるので、ここを共同で開催することで費用をシェアするとメリットとなる。

## ②コミュニケーションの場の必要性

- 社内で飲み会は開催する。当社は施設内に社員食堂があり、そこを使っている。シェフにおつまみを作ってもらい、お酒も出している。開催日が決まっているので、バスで来たり、車を置いて行っている。
- 社外のコミュニケーションの場があれば人によっては参加すると思う。ビアパーティについては会社で食券を買って、行きたい人に渡すようにしているが、2年連続で行く人もいれば、行かない人もいる。
- 懇親の場よりも、技術的な勉強会があると参加はすると思う。自社の技術を近隣の会社に発表することは難しいが、ちょっと違う技術を勉強して発表するのは教育になる。社内でも自分で調べた内容を発表する勉強会をやっている。このような場は訓練になるのでいいと思う。自分のスキルアップにつながると思えば参加も増えるだろう。
- 技術的な話題を話すための講演会もあると日中でも参加する社員は多い。ITのトピックスを北大の先生や大手の話を知りたい社員は多い。時間帯によるが市内中心部では行きづらい。講演会などやっているのであればもっとオープンでして欲しいし、その後に懇親会をセットしてもいい。
- ビジネスの繋がりが無いと言ったが、実は隣のことを知らないだけかもしれないので、このような場があることで、より深く知る機会になると思う。

## ③交通インフラ

- 社員の7割は自家用車を利用。困っていることは駐車場が足りないこと。

## ④その他課題・ニーズ

- 他の入居企業が企業内保育所を作られると聞いたので、ここは活用させてもらいたい。これは各社ニーズがあると思う。自社で保育所を作るほど必要としている人数はいない。そうするとエレセンに保育所があればいいと思っていた。
- 当社は社内に社員食堂があるのでいいが、近隣の企業にしてみればエレセンに食堂があることでメリットになることもある。
- このような企業集積の意味はあると思っている。基本的に中堅中小の企業の中で、エレクトロニクスセンターのような箱があり、会議室を借りられるような部分はメリットとなっていると思う。
- せっかく集まっているということで言えば、例えば講堂や会議室と同じような感覚で、採用活動で共同利用はできないか。会社説明会を個別で開催するのではなく、共同開催も可能ではないか。いろいろな札幌のIT企業を見たい学生がいれば、エレセンで合同企業説明会を開催すれば来やすいのではないか。企業側から見ると、隣の企業は競合とはなるが。

- 企業の共通のニーズを拾って、共同で開催する、ということがメリットになると思う。  
どこが音頭を取るかは難しいと思うが。

## (5)E 社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- 当社では、人材は極端には不足していないが、入ればいるだけ仕事はあるので、多少は足りない状況。
- テクノパーク内の企業とのつながりはほとんどない。
- 自社のパッケージソフトをほとんどテクノパークの人材で開発している。東京ではメーカー等の下請けをやっているというすみ分けになっている。自社パッケージの一部切り出して、どこかと開発する、ということもいまのところない。
- 新規参入を目指す分野・市場はいくつか考えている。例えば今のパッケージを深掘りするもの。
- かつては道内の大学と実施したことがあるが大学の研究者と連携することは今のところない。病院関連の情報は欲しいところ。AI や IoT についてはまだそこまで考えていない。
- ただ、勉強会、研修会があれば参加はさせたい。いまは、ターゲットもはっきりしていて、自社でソリューションを提供できているが、勉強会などで新しい技術を知ることによって、足りないことも実感し、どこかと連携することが十分あり得る。
- 比較的、テクノパーク内の企業とは顔は合わせているので、何ができるかは理解しているつもり。ただし、詳しくは知らない。一度しっかりプロジェクトをやらないと理解できない。

### ②コミュニケーションの場の必要性

- 昔はエレセンの部屋に各企業が入っていたので、そのころの方が会う機会もあった。いまはエレセンの中の企業も減っている。

### ③交通インフラ

- テクノパークにとって、交通のアクセスが一番の課題。新さっぽろからバスかタクシーしかなく、来るにも出かけるにも難しい。
- 社内で自家用車を利用している者は半分くらい。
- 地下鉄がここまで来れば一番いい。乗り換えが入るときつい。せめて駅からのシャトルバスがあるといい。これは採用にも影響している課題である。人が取りづらくなっている。

### ④その他課題・ニーズ

- 空き地が目立ってきていると思う。
- エレセンの食堂は利用している。助かっている。
- ここの建物は古いので、立て直しの時期に来ていると思う。
- 開発の人間の立場で言えば、それほど不便ではない。環境はいいと思う。ただ、新しく

入ることを検討する企業にしてみれば不便かもしれない。

## (6)F 社

### ①コミュニケーションの場の必要性

- かつては、テクノパークに携帯電話メーカーが多く立地していて、「携帯バブル」と呼ばれるほど活気があったが、現在はメーカーも撤退しており、札幌では仕事がなくなってしまった。
- テクノパーク内での企業連携やコミュニケーションの場は求めている。

### ②交通インフラ

- 難しいとは思いますが地下鉄延伸を強く希望している。

### ③その他課題・ニーズ

- 「テクノパーク」の存在自体が若い世代の人に知られていないので、まずは名前を知ってもらう必要がある。そのために、日本ハムファイターズの本拠地をテクノパーク周辺に移転すべき。そうすれば地下鉄延伸も実現可能性が出てくるし、若い人、子どもたちが「テクノパーク」の存在を知って、将来テクノパークで働きたいという気持ちにもなってもらえる。長期的な視点で考えるべき。

## (7)G 社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- テクノパーク内の企業同士が、相互に仕事を補い合うようなことができれば、集積のメリットを活かせるので良いと思う。
- 技術の勉強会やセミナーのようなものを札幌市エレクトロニクスセンターで開催してもらえれば、参加する人は結構いると思う。新しい知識や技術を吸収したいと考えている人は多く、今も街中に聞きに行ったりもしているので、そういうものを近くで開催してもらえると良い。

### ②コミュニケーションの場の必要性

- 社内では年に何回か飲み会を開催し交流を図っている。大通りやすすきのは遠いので、新さっぽろエリアで飲むことが多い。他社とは、テクノパーク協議会のビアパーティぐらいしか交流する機会がないが、そういう時でも、なかなか他社の人と話をするのは難しい。

### ③交通インフラ

- 交通アクセスの悪さが最大の課題であり、地下鉄を延伸してほしい。

### ④その他課題・ニーズ

- 部屋の空調を集中方式ではなく個別空調にしてほしい。それが難しいようであれば、特

定の場所に風があたらないような形態のものに変えてほしい。

## (8)H 社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- 連携したい企業に対しては、必要に応じて個別にアプローチを試みようと思っている。  
もしどこか、連携のコーディネートをしてくれるような機関があると、連携の可能性に広がり生まれるので、テクノパークの魅力が高まり、立地したいと思う企業も増えるのではないかと。

### ②コミュニケーションの場の必要性

- テクノパーク協議会の活動には積極的に参加しているが、だからといって、それがすぐにビジネスには結びつくというものではない。

### ③交通インフラ

- 土日に出勤することもあるが、土日は日中のバスが全く走っていないので、土日のバスの増便が欲しい。

### ④その他課題・ニーズ

- 仕事の環境面を変えることで魅力が高まると思う。環境面でのポイントは「食」と「健康」。
- 「食」については、食堂の味がしょっぱすぎる。もっとヘルシーなものにして質を高めれば、周辺住民も食べに来て、もっと賑わいが生まれるのではないかと。
- 「健康」については、IT系の仕事をしていると運動不足になるので、今あまり使われていないエレセンの講堂（体育館）を入居者に対しては割引するなどして、使いやすいようにしてほしい。
- 職業訓練所や学校をテクノパーク内に作ると良い。人も集まってくるし、そのままテクノパーク内に就職してもらえる人も増える。
- 地中熱を活用したエネルギーシステムを開発しているので、他社のニーズはないかもしれないが、自由に穴を掘って地中熱を測れるような実験施設を作ってほしい。

## (9)I 社

### ①コミュニケーションの場の必要性

- 当社は、センサー関連の技術の開発研究をしているが、現状で特に不自由を感じていないので、テクノパーク内の企業との連携やコミュニケーションの場は特に必要性を感じていない。

### ②交通インフラ

- 通勤時間は20分程度なので、特に不満はない。

### ③その他課題・ニーズ

- 強いて言えば、コンビニがないこと、ATMの機能が限られていることが不満だが、それ以外はとても良い環境で仕事ができていると感じており、特に求めることはない。
- 以前は、恒温恒湿器や測定器などの共有設備があれば、と思っていた時期があったが、結局、自社で購入してしまったので、現状では特にそのようなニーズもない。

## (10)J社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- 現在、テクノパーク内の企業とのつながりはほとんどない。
- テクノパーク内の企業がどのようなことをしているのか、ほとんど認識しておらず、HPなどを見るだけでは詳細がわからないので、テクノパーク内の企業がどのようなスキルを持っているか、という情報があると、テクノパーク内の企業とビジネスパートナーとなりうる可能性が出てくる。
- お互いのスキルを共有し、テクノパーク内の企業同士が協力し合えるような体制ができれば、テクノパークの魅力も高まるのではないか。

### ②コミュニケーションの場の必要性

- 社外の人と交流する機会はほとんどない。もっと交流できるような場があれば、テクノパークがもっと活性化するかもしれない。

### ③交通インフラ

- 交通のアクセスが一番の課題。もともとテクノパーク内にあった企業が母体となっているため、近隣に住んでいて車通勤している人が多く、通勤時間はあまりかからないが、お客様との距離があることが問題。札幌や大通など、街中のお客様が多いため、テクノパークまで来てもらうのは遠くて申し訳ないので、こちらから出向くことが多い。

### ④その他課題・ニーズ

- その他の課題は今のところ思いつかない。家賃も安いと思うし、セキュリティ面で他の賃貸オフィスよりも優れている。

## (11)K社

### ①テクノパーク内企業連携意向

- 日本国内にはなかなか尖った人材がいないので、テクノパークやエレセンで、企業や学校の先生などが協力して、学生が自由に来て自由に議論できるような場を作り、尖った人材を作るとよいのではないか。分野はしぼらない方がよいが、例えばITなら、汎用型AIをやっている研究者を札幌に集めてくるというのも面白い。
- 「テクノパーク」という名前だが、そもそも「テクノロジー」は古い。「テクノロジー」は発展途上国にやらせて、日本は「サイエンス」をやらないと負ける。例えばスマホは「テクノロジー」、半導体の原理そのものを発見するというのが「サイエンス」。

- シリコンバレーがうまくいった要因の一つは、お金のない人たちに、研究する場所や人材交流の機会やフィールドを提供していること。テクノパークが後追いしても意味はないが。
- 入居企業を増やしたい、空き地を埋めたい、という短期的な視点では意味はなく、もっと長期的な視点でビジョンを打ち出すべき。テクノパークは、せつかく企業が集積しているので、新年会や名刺交換などをするのではなく、社業を忘れて将来のことを話しませんかというフォーラムをテクノパーク内の社長を集めてやると、盛り上がるのではないか。そして、例えば、「世界から若くて優秀な人材を集めるセンターになる」といったような壮大なりニューアルのビジョンを示せば、評価してもらえるのではないか。

## ②コミュニケーションの場の必要性

- こんな仕事をやりたいという若い人が、ここにいつも集まるような場があると、面白くなると思う。運営に必要なお金は企業から集めて、その代わりに、企業の宣伝ブースや自由に広告できる部屋を設けて、月に1回企業から人がきて説明会やセミナーを行うような場があると良いと思う。

## ③交通インフラ

- 交通のアクセスが悪いため若い人が来ない。地下鉄直結なら言うことない。研究者にとっては、ぶらっと街中に出られて楽しいことがあるよう環境でなければ可哀想。5分に1本、新さっぽろまでシャトルバスが出ている、タクシー会社とタイアップして、新さっぽろまで500円でいけるテクノパーク専用のタクシーがある、などすると良い。
- 新千歳空港に近いのはメリット。テクノパークと新千歳空港の専用便があれば、海外までのアクセスが便利になり、海外の人材も採用しやすくなるのではないか。

## ④その他課題・ニーズ

- 「健康」も大事なキーワード。社内でもジョギングがブームなので、例えば、テクノパークまでのサイクリングロードの延長やジョギングロードの整備などをしてほしい。
- ここは、自然環境がすごく良いところなので、「自然」「IT・研究」「健康」が本質的な価値としてつながるような何かが実現できると良い。
- 「くすぶっている人材」や「行き詰まった社長さん」が集まるような場を行政として提供できると面白い。

### Ⅲ 有識者による検討

#### 1. 意見交換会の組成

札幌テクノパークに求められる新しい機能やの今後の発展可能性、課題や方策等を検討するために、学識経験者、民間企業、札幌テクノパーク協議会、行政等からなる検討会議を開催した。

以下にその概要を示す。

図表 意見交換会メンバー

敬称略 50音順

氏名	所属
石井 茂喜	特定非営利活動法人札幌市IT振興普及推進協議会理事長 札幌テクノパーク協議会会長
川村 秀憲	北海道大学大学院 情報科学研究科教授
菊井 健一	株式会社東急エージェンシー 東急プロジェクトプロデュース局 局長
滝澤 豪	経済産業省 商務情報政策局情報処理振興課長
田畑 善基	東日本電信電話株式会社 ビジネス&オフィス事業推進本部北海道法人営業部 部長
中村 秀治	株式会社三菱総合研究所 参与 企業・経営部門副部門長

#### <オブザーバー>

氏名	所属
近江 栄治	経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 情報・サービス政策課情報産業担当参事官
村椿 浩基	札幌市 経済観光局国際経済戦略室IT・クリエイティブ産業担当課長



## 2. 議論概要

### (1)第1回会合

■日時：平成28年12月2日（金）10:45～12:15

■場所：札幌市エレクトロニクスセンター 2階 A・B・C会議室

- 次第：1. 委員紹介  
2. 資料の説明  
3. 意見交換  
4. 連絡事項

■主な意見等

○人がいることでのダイナミズムが欲しい。カフェのような集える場所、バーベキューのようなイベントも必要。そこにつなげるメンターやコーディネーターが必要。

○「空気」がとても大事。NoMAPSも参考にしたS×SWもオースティンの雰囲気が自由でカオスなところが魅力となっている。

○働き方改革も含めて、ここでしかできない実証をしてみてもいい。ドローンもそうだし、除雪車の自動走行等。テレワークをしつつ、ここでイノベーションを生み出すようなことができればいい。

○実証をやると実証で終わる場合が多い。ビジネスベースで考えていないので、無駄にハイスペックとなる。実証の段階からどう実装するかを考えるべき。

○人材育成は大きなポイント。役所や財団がもっと引っ張り出すことが必要ではないか。ここはもっと充実すべき。

○大学等と地域ぐるみで取り組むべき。

○住環境の整備もしっかりすべき。素敵な住環境に住んで、そこから自転車で通勤する。地域との一体化が必要。テクノパークのそばに住んで簡単に来られることも必要だろう。

○テクノパークに来ると、データをマイニングして、加工する人がいるとなると、何かしたいとここに来る。

○いわゆるユニバーシティではなく専門的な理系の学校があってもいい。

○例えばもみじ台のデータを提供してもらって、それを元にビジネスをする、ということも考えられる。

## (2)第2回会合

■日時：平成29年2月15日（水）10:00～12:00

■場所：札幌市エレクトロニクスセンター 2階 A・B・C会議室

- 次第：1. 委員紹介  
2. 前回の要旨  
3. アンケート調査中間報告  
4. 札幌テクノパークのあり方（素案）の説明  
5. 意見交換  
6. 連絡事項

### ■主な意見等

○賃貸しだと施設の魅力がないだろう。無料でもいいので、例えば学生に貸して、ドローンの実験を体育館や外でやってもらう、自動運転の実験をしてもらう、とすると、このエリアで研究室のメンバーと企業が意見交換できるのという付加価値ができる。

○バイオでもそうだろう。近くに北大という人材供給源があるので、バイオ系にただで入ってもらったり、研究費を出してもいいので、来てもらう。

○ITの研究費、バイオの研究費を出すと、テーマが面白いので立地する企業も出てくるだろう。

○北海道大学という立派な大学があるのだから、取り組むべき。机貸しでもいい。1部屋貸しは難しくても、シェアスペースだと入りやすい。たくさん優遇すれば来やすくなる。そうすると、オープンイノベーションに関心のある企業はここに来ることになる。北大という資産を大いに活用すべき。

○面白いことをやりたい人を一本釣りして、場所を提供したり、企業との連携、交流があることでアイデアをビジネスの形にしていくという仕組みがあればいい。

○江別には酪農大学や情報大学もある。出口としての可能性があると思う。

○誰にチャンスを与えるかは一番マキシマムに使える人を選ぶ。そうなれば誰も文句は言わないだろう。

○テクノパーク、エレセンは元々産学交流の拠点だった。先生だけではなく学生も含めて業を起こしてもらうということだと思うが、やり方はあると思う。

○例えば、ウェットラボで必要な機械が高いので、大学で余っている古い機材を持ってきて、ただで使えるというのはどうか。からっぽの部屋に立派なラボができる。この周り

でも、先生と交流できるのであれば企業も戻ってくる。

- 自然環境もあるし、教育環境として良かった面もある。本州とは違うフロンティアスピリッツもある。フィールドも自然が豊か。これらをもっと高度化したり、現代風に絞って、魅力を見せていく。
- 子育てもしやすい、といったことも重要。働き方改革と言われているが、学び方改革の先人を北海道、札幌がやれないか。
- 学習指導要領でプログラミングが必須となる。先生を育成する必要があるが札幌が拠点となったらどうか。早い者勝ち。そうなると北海道で子供を育てる魅力が出る。教育のIT化となると、札幌でツールの開発もできるのでは。
- 北海道愛が強い企業と関係性を強めた方がいい。
- 教育に関しても、プログラミングは重要。先生を育成することも重要だが、子供を集めて、面白いものを作らせるのも重要。
- テクノパークのDNAとしては先端のものがあり、損得勘定ではない中で新しいことにトライしてきたのだろう。この先を考える時に、採算性を考えたりすると小さな話なる。DNAを再確認して考えるべきだろう。
- 企業支援という意味ではスタートアップの人をどう呼び込むか。ただ、一本釣りは目利きがないとうまくいかない。
- 自由に交流が出来る場があればオープンイノベーションの動きと近いことになる。このエリアの人が集まる場があればもっと魅力的になる。魅力的な人材がたくさんいるところには大企業は寄ってくる。
- 産官学という話が出ているが、そこに民の力をどう使うかがヒント。民が集まれることもポイントだと思う。
- 魅力的な核となる研究者がいる、ということもあるし、民が集まっていることも魅力だろう。
- 空き室を会議室でもシェアオフィスでも使った方がいいのでは。
- 隔離された空間が利点になるとすれば、大学の先生は実証実験をやりたいがっている。それをここで展開するのもいい。普通は研究室で実施して学生に使わせる場合が多い。結

構やりたい人はいるのでは。

- 北海道を AI で盛り上げようとして、人工知能研究拠点「未来 AI 研究センター」を立ち上げた。未来大学がセンターとなるより、テクノパークにバーチャルオフィスを作って、活発な先生に来てもらい、AI 研究センターを持ってもいいのでは。
- AI の バーチャルラボを作るのもいい。
- 尖ったものがあると見に来たい人もいる。AI を含めたハイテクについて、高価なものだけではなく、最先端のものを見せることで人が集まり、交流も深まる。
- 秋葉原にもものづくり系のシェアオフィスがある。高価な 3D プリンタ等があり、そういう種類の スタートアップ企業が用意できないような機材を置いておくのもいいだろう。
- 工作装置を準備して開放するのも魅力だろう。
- 夜の飲み会のような交流の場づくりがあると地理的な距離を克服できる。
- スタートアップベンチャーで言えば、周りで泊まれる施設の用意もあるといいかもしれない。缶詰環境というのも魅力と感じる人もいると思う。
- 金曜日に食堂に集まることもないのかもしれないが、アメリカなどでは結構集まっている。その中にベンチャーや企業が混じると刺激になる。実証実験も企業を巻き込んでできるとシリコンバレー的になる。
- 日本が好きなアジア向けに日本でベンチャーをしたい人向けに PR することもあるのでは。ここで起業してみたい人を取り込むこともあるだろう。
- 学園都市構想に近くなるが、住む場所を用意すれば新しい場になると感じるが。
- 空いている住居をシェアハウスの的に使うこともあるだろう。ここも自由に使えるとなると海外の人も来れる。中心から通わなくてもここで職住が完結する。
- インフォーマルな観光大使をここで作ろうというプロジェクトがあっても面白い。「私をもっと高度化してくれ」とアピールすることで世界の人が手を上げるだろう。
- IT の延長で AI や IoT もあるが、デザインもある。S×SW でもアートや音楽が融合して魅力になっている。デザイン力は重要。一人いるだけでもものづくりは変わってくる。テクノロジー+アート・デザインを出していけるとエッジが効いてくるだろう。

### (3)まとめ

有識者のそれぞれの立場、経験等からディスカッションされた意見から、札幌テクノパークに求められる機能やサービスを以下に整理する。

#### ■意見交換で出された札幌テクノパークへの期待、求められる機能等

##### <集う“場”の整備>

- 人がいることでのダイナミズムが欲しい。カフェのような集える場所、バーベキューのようなイベント等。
- 夜の飲み会のような交流の場があると地理的距離を克服できる。
- 「空気」がとても大事。カオスなところが魅力。

##### <研究者の誘致>

- テクノパークに来ると、データをマイニングして、加工する人がいるとなると、何かしたいとここに来る。
- エリア内に大学の研究室があると、立地企業との意見交換ができる付加価値が増す。
- 無償、低価格で研究者に入居してもらってもいい。
- 魅力的な核となる研究者がいると求心力となる。
- 面白いことをやりたい人を集める。
- AIのバーチャルオフィス機能を持ってもいい。

##### <実証実験・ビジネス化>

- 働き方改革も含めて、ここでしかできない実証をしてみてもいい。  
(ドローン、除雪車の自動走行等)
- 例えばもみじ台のデータを提供してもらって、それを元にビジネスをする、ということも考えられる。
- 隔離された空間での実証実験は大学等でもやりたがる。
- 空いている住居をシェアハウス等で使えるといい。

##### <教育・研修機能>

- 人材育成は大きなポイント。ここはもっと充実すべき。
- 大学等と地域ぐるみで取り組むべき。
- いわゆるユニバーシティではなく専門的な理系の学校があってもいい。
- プログラミング、ITを教える立場の人材(教員等)の研修拠点とする。

##### <その他付加機能・サービス>

- 住環境の整備もしっかりすべき。
- 大学等で利用していない中古機材等を活用して、無償で利用可能にする。
- テクノロジー+アート・デザインを出していくとエッジが効く。
- スタートアップベンチャーには、泊まれる施設が周辺にあるといい。

等

## IV 今後の札幌テクノパークの方向性

### 1. 札幌テクノパークに求められる新機能の考え方

本調査で実施した現状分析、他都市関連施設との比較等から、札幌テクノパークの強み、弱みが明らかとなった。意見交換の場でも議論されたが、これら特徴を踏まえた上で、「次の30年」を見据え、「強みをより強くするための機能・サービス」「弱みを克服する/弱みを強みに変える機能・サービス」を顕在化させるとともに、具体的な取り組みを展開していく必要がある。

強みを活かした新機能の考え方、弱みを克服する新機能の考え方について以下に示す。

#### ■強みを活かした新機能の考え方(例示)

○札幌市のハイテク（ICT）の拠点としてICT企業が立地。現在もICT産業を支えている  
⇒**集積を活かした新たな取組が可能**

○テクノパークフェスタ等イベントにより周辺住民に存在が認知されている  
⇒**住民と連携した取組が可能**

○道外自治体、議会等からの見学希望がある（注目されている）  
⇒**ユニークな取組に対する情報発信力(地域への波及力)がある**

○共同開発など、エリア内で企業間連携が物理的に実現しやすい  
⇒**集積を活かした企業連携の取組が可能**

○自然が豊かで、施設内に娯楽施設、商業施設等がないため、研究・開発に没頭できる  
（最寄りの新札幌の駅、商業施設等との適度な距離感）  
⇒**自然とハイテクを組み合わせた取組が可能**

○札幌市エレクトロニクスセンターが立地し、安価な会議施設もあり、インキュベート機能が充実  
⇒**機能を活かした研究開発拠点の拡充が可能**

○新千歳空港へのアクセス面で中心部よりも利便性が高い  
⇒**道外、国外企業に対する魅力がある**

○ドローンの制限エリアから外れている敷地の確保が可能  
⇒**ドローンの飛翔実験などで有効活用が可能**

■弱みを強みと変えるための新機能の考え方(例示)

○札幌中心部から離れている

⇒**周辺環境や都市機能に依存しない思い切った環境整備、取組が可能**

○空き地が目立つ

⇒**実験フィールドとしての活用可能性**

○公共交通機関のアクセスが限られているので、突発的な事象への対応が遅れることがある

⇒**交通量の少なさを活かした研究開発はないか**

○テクノパーク全体の施設の老朽化

⇒**建替のタイミングに合わせて、一体となった開発も可能**

○入居企業同士のアライアンスの不足

⇒**今後のアライアンスの活発化に期待**

○生活環境（商業施設、飲食施設、娯楽施設等）の未整備

⇒**実験等に使えるフィールドが豊富**

○閉鎖的、隔離的な空間のイメージがある

⇒**閉鎖空間でしかできない研究開発が可能**

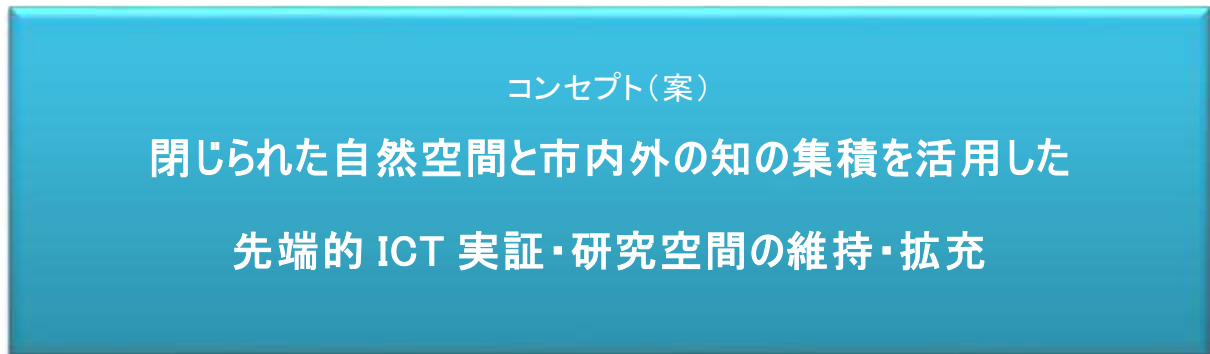
また、札幌市が平成 28 年度に取りまとめる予定の「札幌市 ICT 活用戦略」の案では、札幌が持つ多様な価値全体を「Sapporo Value（サッポロバリュー：札幌の価値）」と位置付け、利便性が高く安心して暮らせる都市機能などの「地理的価値」や充実した教育環境と質の高い人材の輩出・集積といった「人的価値」、ICT 産業や技術の集積とその活用に見られる「技術的価値」、そして、挑戦を志向し創造性を刺激する土壌を持つまちとしての「創造的価値」の 4 つに整理されている。札幌テクノパークはこれら 4 つの価値の実現に貢献しうる機能を提供することが求められる。



## 2. 具体的取組方策

### (1)コンセプト(案)

上記の考え方や期待等をもとに、現状の機能・特徴を再認識して新たな切り口でユニークな拠点を目指す札幌テクノパークの今後の整備コンセプト(案)を以下に示す。



### (2)具体的取組

上記コンセプトを実現するための具体的取組例を以下に示す。

#### ①先端的研究に取り組む研究者の誘致

有識者の意見や企業アンケートによれば、札幌テクノパークに大学等の研究機関の先端的な研究者が「居る」ことが、求心力となり、ヒトもカネも集まってくるとの指摘があった。北海道大学を始め、物理的な距離が近い酪農学園大学や北海道情報大学等との連携を深め、常設もしくはサテライトの研究室を整備し、研究者や学生が札幌テクノパークで研究に従事する環境を整備することが望まれる。

#### <関連取組・整備例>

- AI センターの誘致
- 研究オフィスの低価格提供(無償提供)
- 等

## ②実証実験フィールドとしての整備

札幌テクノパークが有する比較的閉鎖性のある「空間」は、先端的な ICT 関連の実証実験のフィールドとして活用していくことが可能である。積雪寒冷地の特性を活かした実証実験や、近隣住民、テクノパーク入居企業等と連携した実証実験など、様々なレベルのプロジェクトを実行できる環境整備が求められる。

### <実証実験テーマ例>

- AI、ビッグデータを利用した除排雪効率運用(自動運転、最適ルート化、運転状況情報提供等)
  - 新さっぽろ⇄札幌テクノパーク内のシャトルバスの自動化研究(通年)
  - 水素活用を組み込んだ寒冷地型スマートエネルギー利活用(エネルギー製造と利用の最適化)
  - エネルギー有効活用をスマートアグリ(バイオマス、雪氷、太陽光複合型ハウス栽培)
  - 燃料電池車の寒冷地都市走行実証(排水の凍結、道路への影響調査)
  - ドローンの自動操縦プログラムの最適化(積雪寒冷条件の最適化等)
- 等

## ③人や知が集う「場」の整備

企業ヒアリングや有識者意見交換会等において、札幌テクノパーク設置当初は、立地企業や市内大学研究者等が札幌市エレクトロニクスセンターに集い、そこで様々なユニークな取組やアイデアが生まれていた、という意見があった。また、立地企業同士のコミュニケーションが取れるイベントやカフェ等の要望も見られた。日常から技術シーズやニーズを持つ人々が集い、意見交換が出来る「場」は、シリコンバレーや「札幌ビズカフェ」の事例が示すように、多くのベンチャー企業等を輩出するための条件の一つとして認知されている。札幌テクノパークにおいても、年数回のイベントだけではなく、札幌テクノパーク内の人材が気軽に集い、議論し、理解しあい、そこから新たなビジネスが生まれるような「場」を整備することも有用である。

### <関連取組・整備例>

- 札幌市エレクトロニクスセンターでのカフェ機能の充実(夜間開放等)
  - 最先端のテーマについて技術者が紹介する輪読会の開催
- 等

#### ④人材育成機能

企業ヒアリング、有識者意見交換会等においては、人材育成は札幌テクノパークの機能として充実を求められている。企業アンケートでも高度人材は札幌テクノパークへの進出のメリットとして認識されており、このような ICT 関連の高度人材の育成について、札幌テクノパークが果たす役割は大きい。大学や企業内技術者への高度な技術研修に止まらず、子供の頃からプログラミング等に親しむ場を提供すること等も必要である。

##### <関連取組・整備例>

- AI やドローン、IoT 等の技術的な研修会の開催
  - 未就学児、小中高生など多岐に渡る教育プログラムの開発・提供
  - 教師等へのプログラミング学習指導
  - 札幌市青少年科学館等との連携強化
- 等

#### ⑤コーディネータ機能の強化・拡充

他都市関連施設調査等において指摘されたが、企業文化が異なる異業種同士のマッチングや産学連携を効果的に図るためには、どのような企業、技術の組み合わせで、どのような市場に対し、どのような成果を上げられるか、といったビジネスの出口を描くことができるコーディネータの存在が重要である。単に企業同士を合わせたとしても意見交換で終わることも多く、いかに双方の企業にとってメリットがあるか、誰でも知ることが出来る情報ではなくコーディネータが独自に入手した情報や人的資源等に基づく説得力のある方向性を示せるかが、マッチング成功の鍵となる。札幌エレクトロニクスセンターにおいて、企業間の連携による新たなビジネスの創出を図るためには、これらコーディネータ機能をより充実させることも必要である。また、このようなコーディネータ機能が札幌テクノパーク内に存在することは、道外、海外からの企業誘致に際して、他地域にはないソフト面での特長として PR できるものと考えられる。

##### <関連取組・整備例>

- さっぽろ財団のコーディネータ等による企業訪問の拡充(御用聞き)
  - コーディネータの育成・確保(他産業経験者等コーディネータ候補の顕在化)
  - 農業、食品、観光、バイオ等の専門家とのネットワーク構築
  - IT コーディネータ、他機関のコーディネータの交流の促進
- 等

## ⑥その他インフラ面での整備検討

企業ヒアリングや有識者意見交換会等において、札幌テクノパークの弱みとして交通インフラの整備状況が上げられた。現状では、公共交通機関による移動は、最寄り駅である新札幌から民間バス事業者によるバス路線、もしくはタクシーのみとなっており、自家用車で通う従業者も多い。例えば、コミュニケーションを取ろうとして夕方以降に懇親の場を設定しても参加できない人も多い。また、市内中心部からの参加者も招聘しづらい面もある。バス路線の拡充はコスト的に難しいテーマだが、かながわサイエンスパークのような駅からの無料シャトルバスに類する移動手段の検討も必要である。

また、札幌テクノパーク内もしくは近隣で安価に宿泊できる設備があると、海外からの人材も誘致しやすく、スタートアップベンチャーにとって有用との指摘もあり、これら宿泊インフラについて、周辺設備等の活用も含めた検討が必要である。

### <関連取組・整備例>

○シャトルバスの運行検討

○宿泊が可能な施設整備検討

○近隣住宅の借り上げ等による安価な住居スペースの確保検討

等

上記に示した具体的取組方策については、あくまでも現時点で想定される例示であり、その内容や実施主体、連携体制等については、更に詳細な検討・精査が必要である。